



おおいた  
大茶会

第33回 国民文化祭・おおいた2018

第18回 全国障害者芸術・文化祭おおいた大会



遊

～ひらく・であう・めぐる～

劇場

メグルメク オオイタマチ中ビジュツカン

大分市リーディング事業

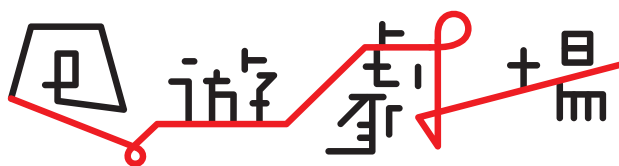
「回遊劇場～ひらく・であう・めぐる～」記録集



# INDEX

回遊劇場概要	1
ディレクターズコメント	2
<b>CIAO's Cafe</b>	8
回遊 Cafe#204	9
カフェ・ギャラリー	13
<b>ウォールアート</b>	28
壁画	29
モザイクアート	32
バス停ポスター・バナー	34
<b>市民参加アート</b>	35
障がい者施設アート作品展	36
イベント	46
アートツアー	50
<b>パブリックアート</b>	51
会場運営	52
作家プロフィール	54
広報記録	58

「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」  
大分市リーディング事業



～ ひらく・であう・めぐる～

会 期:2018年10月6日(土)～11月25日(日)

会 場:大分市中心市街地 各所

「回遊劇場～ひろく・であう・めぐる～」とは、2018年秋に大分県で行なわれた「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」における大分市のメインプログラムである。大分市内中心部や中心市街地循環バスのルートエリアを劇場や美術館に見立て、20組の作家がまちなかのパブリックな空間や日常空間を舞台に作品を展開し、13の障がい者施設による活動紹介や作品展、市民が参加できるさまざまなイベントを行なった。回遊劇場が大分市を訪れる人々へのおもてなしの場であるとともに、市民自らがこの〈劇場＝都市〉の出演者として、大分の魅力を発信する舞台となることを目指した。

### コンセプト

#### 【3つの視点】

- ひらく… ところをひらく、まちをひらく、文化をひらく
- であう… 人とであう、まちとであう、異分野コラボ・伝統と現代
- めぐる… 想像をめぐらす、まちをめぐる、アートをめぐる

#### 【4つの手法】

- CIAO's Cafe… 空き店舗を改装したスペースでの活動、カフェや既存店舗・ギャラリーでの展示
- ウォールアート… 壁画、モザイクアート、バナーアート、バス停のグラフィック作品など
- 市民参加アート… 障がいのある方の作品展示、ボランティアによるアートツアー、ワークショップなど
- パブリックアート… 野外彫刻、おおいたトイレンナーレ2015作品、地下道アートなど

### 回遊劇場概念図



## 回遊劇場レポート

回遊劇場ディレクター・大分市美術館 館長 菅 章

### はじめに

「第33回国文化祭・おおいた2018」、「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」（以後、「文化祭」という。）の大分市のリーディング事業「回遊劇場〜ひらく・であう・めぐる〜」は無事51日間の会期を終了することができた。会期中の10月、11月は台風シーズンであり、特に屋外展示物にはずいぶん気を使った。しかし幸いなことに開幕直前の10月5日に接近した台風25号以降は台風どころか雨の日も少なく、天候に恵まれた。

長いようであつという間に終わった感がある今回の回遊劇場だが、実施にこぎつけるまでには多くの困難があった。美術館やギャラリーといった美術の制度的空間と異なり、都市の商業空間や日常的場面に美術作品が晒されることは過酷なことである。それを乗り越えるにはアーティストの協力はもちろん、店舗や物件の地権者の理解、サポートするスタッフの人材確保も重要だ。実際にアーティストをはじめ、多くの方々と出会い、助けられ、支えられて何とか実施にこぎつけることができた。心から感謝申し上げたい。

終了にあたり、企画の意図、計画・準備段階から実施に至る報告、成果、課題、今後の展望などについて述べていきたい。

### 「回遊劇場」とは何か

大分市内には2つの美術館をはじめ、劇場、ギャラリー、催事スペースなど数多くの文化施設がある。また中心市街地循環バス「大分きゅんバス」がこれらの

施設や駅などの要衝をつなぐ役割を果たしており、点から線、面へと広がる大分市は、まちがすでに劇場や美術館のようでもある。しかし、これらの施設は日常から隔離された非日常であり、「ハレ」と「ケ」の関係だといえる。ならば、両者の境界を取り除き、まち全体に劇場や美術館の機能を持たせ、日常にまでアートを浸透させようと考えた。

そもそも回遊劇場というネーミングは、いくつかの伏線から浮上した造語である。一つ目は前段の「回遊」についてだが、大分市は中心市街地活性化の目標に「魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上」<sup>1</sup>を挙げている。今回の文化祭においても、市内各所でさまざまな展示やイベントが同時期に開催されることを考慮すると、いかに回遊性を高め、市内をめぐってもらうかという視点は必須条件だと考えた。

後段の「劇場」についてはルイス・マンフォード<sup>2</sup>が「都市は芸術を育てるとともに芸術であり、都市は劇場をつくるとともに、劇場である。人間のより目的的活動が人間や出来事や集団と争い協力しながらさらに意義深い頂きへと形成され、実現されるのは、都市において、劇場としての都市においてである。」<sup>3</sup>と述べたことに着想を得た。都市が芸術であり劇場であるならば、さしずめ大分市が目指すのは劇場都市であり、さらにその都市は回遊性をもった回遊劇場なのではないか。そのおぼろげなイメージから出発した回遊劇場だが、「ハコモノ」としての劇場ではなく、「コト」としての劇場であり、動きのあるライブそのものが劇場だとすれば、それは動詞をともなったダイナミックなものではないかと思えた。そこでサブタイトルとして「ひらく・であう・めぐる」という3つの視点を付した。



こうして「回遊劇場～ひらく・であう・めぐる～」というリーディング事業のタイトルは意外と早く決まった。だが、問題はそのイメージをいかなる方法で具現化できるかである。回遊劇場を実施するにあたって、その構造、仕組みをいかにつくっていくかが、計画段階からポイントとなった。そしてそれは都市としての劇場を「ひらく・であう・めぐる」ための手法でなければならない。

「回遊劇場～ひらく・であう・めぐる～」は市内中心部を劇場や美術館に見立て、都市の日常空間にアート<sup>4</sup>をさまざまな形で散りばめることで、思いがけない変化や発見を楽しんでもらう試みである。そのためには公共空間にアートの舞台を設定したり、ありふれた日常空間にアート<sup>インストール</sup>を挿入したりすることで、既存の文化施設だけでなく、日頃アートをあまり意識することがない場所や空間が舞台となることが条件となる。

そこで回遊劇場概念図<sup>5</sup>にあるとおり、3つの視点と4つの手法によりコンセプトを組み立てた。3つの視点は先述の「①ひらく②であう③めぐる」である。4つの手法とは「(1) CIAO's Cafe (2) ウォールアート (3) 市民参加アート (4) パブリックアート」である。

## 4つの手法における活動と成果

それでは4つの手法について具体的な取り組みを紹介しよう。

### 1. CIAO's Cafe

CIAOとはイタリア語の挨拶だが、ここでは Creative Innovation Artists in Oita (大分の創造的

な革新アーティスト)を略した造語。CIAO's Cafeの舞台は実際営業している喫茶店やギャラリーを指すカフェ・ギャラリーと、空き店舗をリノベーションした回遊Cafe#204の二本柱である。今回の文化祭のテーマが「おおいた大茶会」であることから、中心市街地のカフェを使って何かできないかという思いがあった。

大分市には古くから珈琲文化があり、林房雄、佐藤敬、高山辰雄らを旧制大分中学で指導した山下鉄之輔(画家・図画教師)が教え子をはじめ文化人と画房キムラヤの喫茶部に集って芸術談義をし、芸術都市の創造に一役買った歴史がある。戦後もキムラヤの喫茶店は、磯崎新、吉村益信、赤瀬川原平などネオ・ダダの基をつくった面々の拠点となった。

現在も大分市中心部には歴史のある喫茶店や個性豊かなカフェがある。その空間でアーティストが展示をすることで、店に新たな風を送り込むとともに、そこから生まれるコミュニケーションに期待したのである。

カフェ・ギャラリーの出品者は、網中いづる(大分銀行赤レンガ館、シネマ5)、井川惺亮(ギャラリーおおみち)、Kana(田崎洋酒店)、北村直登(Coffee Shop haze)、ザ・キャビンカンパニー(絵本カフェみちくさ)、汐月顕(中村屋)、芝田知明(LLOYD、田崎洋酒店)、西野正将(COFFEE KAISHODO)、山本大補(カフェ・ド・BGM)、ユキノ恭弘(カモシカ書店)。

また、大分銀行宗麟館2Fのソーリススクエアではジャンルの異なる2人のアーティストによるコラボレーションを3パターン試みた。コラボレーションは今回

の文化祭の基本方針の一つ「新しい出会い、新たな発見－伝統文化と現代アート、異分野コラボ－」で掲げられている。この空間では異なった分野の新たな出会いから生まれる化学反応を期待した。第1期が川島茂雄（竹工）×Kana（ソフトスカルプチュア）、第2期が井川惺亮（絵画）×森貴也（彫刻）、第3期が北村直登（立体）×箕河原淳（木工）である。

CIAO's Cafeの拠点であるだけでなく、回遊劇場全体の象徴となったのが、回遊Cafe#204である。今回の回遊劇場で最も重視したのは活動拠点となる場所だ。それはインフォメーションであり、スタッフの詰所であり、作品展示やワークショップの場所にもなるステーションである。しかも、それが日常と非日常が交差するような通常と異なった使われ方をする空き店舗であればさらにいいと考えた。大分市中心部に空き店舗はかなり存在するが、そこを一定期間だけ借りるハードルは高い。家賃を半年以上支払うにはかなりの経費が伴うし、かといって実際に展示する期間だけに限定すると、いつ他に新たな契約が発生するか分からないからだ。結果、空き店舗を使わせてもらうには地権者の理解と協力がなければ困難ということになる。幸い今回は、府内町にある若竹ビルのふないアクアパーク側の2階のかなり広い空き店舗を好条件でお借りできることになり、会期中オルタナティブスペースとして用途変更することになった。

建築構造や設備・インフラを建築家松田周作、会場構成・什器デザインを美術ユニットOlectronica（加藤亮・児玉順平）にお願いした。彼らはこの空間を気に入り、拠点となるオルタナティブな施設にふさわしい場所へとリノベーションしてくれた。また、会期



回遊Cafe#204模型 / Olectronica



回遊Cafe#204模型内部 / Olectronica

中はふくろうの森ビルのスタッフが運営し、展示ギャラリーとしてだけでなく、さまざまなイベントや交流ができる拠点カフェとして機能したのであった。

また、隣接するふないアクアパークにはパブリックアートとして紹介する「おおいとイレンナーレ2015」のレガシー《メルティング・ドリーム》や芝田知明のステンレスアートがあるほか、服飾デザイナー三浦温のオープンアトリエでルーティーンワークを見ることができる。これは三浦のテーマとする「ホントの時間」というプロジェクトの延長で、日常

の暮らしの中に散りばめられたモノや人との出会いの装置だといえよう。回遊Cafe#204の野外劇場として拡張し、まちの風景の中で異彩を放っていた。

## 2.ウォールアート

ここではモザイクアート、バス停ポスター・バナー、壁画という風に便宜上分類している。ウォールアートは都市の風景となる回遊劇場における書割的役割をするとともに、ワークショップや制作過程を見ることで参加、体験型イベントとしても機能したといえよう。

JR大分駅に到着した観客を迎えるのがモザイクアートである。大分県立芸術文化短期大学と大分市内10校の小学校の児童や市民が連携して、大分を代表する画家、田能村竹田、福田平八郎、高山辰雄、宇治山哲平の大分市美術館所蔵作品を巨大なモザイク画にしたもの。このモザイク画を構成するカラーチップが多くの児童、市民の参加協力によって1枚1枚貼られ、それが巨大な名画のビジュアル・イメー



小学校でのモザイクアート制作風景

ジとなって大分市を訪れた人々のおもてなしをしたのである。

バス停ポスター・バナーは2019年1月5日から大分市美術館で開催される蜷川実花展の告知を兼ねたオリジナルポスターとバナーをまちに掲示し、鮮やかな色彩や斬新なデザインによって劇場を感じてもらうという趣向。大分市内中心部のバス停に設置した6種類のポスターは、回遊と出会いを演出するコンテンツだ。またJ:COMホルトホール大分の吹き抜け2階部分に掲出した蜷川展の巨大バナーも、<sup>パブリック</sup>公的な日常空間に刺激と劇場性を与えた。

宮崎勇次郎、芳賀健太、谷川広人がそれぞれ市内中心部の府内町、相生町、中央町に描いた壁画は日頃ほとんど気にならなかった壁や空間が、まちの<sup>ランドマーク</sup>目印となり、場を再生・変容させる起爆剤の役目を果たしている。壁画制作は基本的にまちなかでの公開制作となることから、制作プロセスに触れるこ



芳賀健太 制作風景

とができ、アーティストとのコミュニケーション、イベントとしての広報宣伝など、数多くのメリットがある。制作中の3人へのリアクションはかなりなもので、SNSなどを通じてそれが広がり、多く

の人が情報を得るとともに、実際に現地を訪れ、目撃した投稿もかなり見られた。

### 3. 市民参加アート

市民参加アートという分野が存在するわけではないが「街にあふれ、道にあふれる、県民総参加のお祭り」は文化祭の基本方針の柱であり、この文化祭そのものが市民、県民が参加するものというのが前提である。障がい者アートへの関心がここ数年高まっている中、特に今回は全国障害者芸術・文化祭が同時開催となった。大分県内でもさまざまな障がい福祉サービス事業所が活動している。今回は市内中心部及び大分市美術館に発表の場を作り、それぞれの活動や表現を展覧した。大分銀行本店、大分市美術館、九州電力大分支社、コンパルホール、L.L.C.ハートブリッジプレジジョンセンター、ふくろうの森ビルなどの場所を提供していただき、さまざまな表現による個性豊かな障がいのある方のアートが展開された。



ふくろうの森ビルでのライブイベント

また、会期中週末を中心にイベントを数多く組んだ。CIAO's Cafeに参加していただいたアーティストにはトークやワークショップなどの関連イベントをお願いし、ディレクターズツアーをはじめ大分市美術館主催のアートツアーとの連携など、回遊劇場を体感してもらう機会を多く持つことができた。

### 4. パブリックアート

今回パブリックアートという項目を設け、回遊劇場の手法としたのには2つのねらいがあった。1つは大分市が「アートを活かしたまちづくり」を始めて、「おおいとイレンナーレ2015」や「地下道アート」など、近年制作したコミッションワークが市内の各所にあり、メンテナンスを行ないながら継続的に紹介していくこうとしているが、これらのレガシーを活かしていくことである。もう1つは数多くある野外彫刻の存在を知らしめることである。大分市内中心部には遊歩公園を中心として、公園や通りに朝倉文夫、北村西望、<sup>えんつば</sup>圓鏑勝三、舟越保武、佐藤忠良といった巨匠の彫刻作品が数多くある。終焉の地が程近い瀧廉太郎の像や大友宗麟時代の南蛮文化、キリスト教をテーマにした銅像やレリーフなどは、大分の歴史や文化を伝える重要なモニュメントでもある。これらは「彫刻を活かしたまちづくり」によって今後も再配置や修景整備など都市計画と芸術振興の要素として活かされなければならない。回遊劇場では新しいアートと歴史的な野外彫刻をパブリックアートとして回遊のポイントに加えることで、ウォールアートやCIAO's Cafeとともにまちの歴史や新たな魅力発見のための道標にしたのである。





ディレクターによる彫刻の説明

大分市内にあるすべてのパブリックアートを網羅するには多すぎるので、22点（箇所）を選択し、回遊するための番号を付した。ちなみにCIAO's Cafeが22箇所、ウォールアート19箇所、計63箇所である。これらは大分市の公式ガイドブックで紹介し、番号と位置を示した巻末のMAPを見ながらめぐることができる仕組みにした。また、回遊性のモチベーション担保や成果、評価の参照としてスタンプラリーやアンケート調査も行なった。

## おわりに

回遊劇場の手法や活動について述べてきたが、51日間という長丁場であったこと、全国障害者芸術・文化祭が同時開催であったこと、実施場所が広範囲なことなど、さまざまな条件下で目まぐるしく、準備不足が目立った開催となった。店舗や壁面を提供してもらうための場所探しや協力依頼などについても商店街への告知不足で、連携が不十分であった点など反省すべきことがらも多い。また、障がい者施設アートとCIAO's

Cafeのアーティストとのコラボレーションが今回実現できなかったという課題もある。

そのような中、アーティストの協力には頭が下がる。ここ数年大分県内在住のアーティスト、クリエイターの活躍は目覚ましく、特に今回、限られた時間と予算の中で難題に応じていただいた。彼らには不慣れな場所でもそれぞれの特性、回遊劇場への理解によって、十二分な力を発揮していただいた。また、ボランティアの育成と活動については、「おおいたトレンナーレ2015」の時に活動していただいた「ポールさん」に、引き続き案内所での対応やまちなかでのガイドをしていただいた。自らが興味を持ち楽しんでまちの魅力を発信するという進取の気持ちで、まさに回遊劇場のアクター、アクトレスともなってもらったと考えている。

課題や反省点はあるとはいえ、今回の経験がアートを活かしたまちづくりの一里塚として、アーティスト、商店街の人々、ボランティアや運営スタッフ、さらにご参加いただいた市民の記憶に刻まれ、活力となり、今後の活動へとつながることを願っている。

### 註

1. 大分市『大分市中心市街地活性化基本計画』/ p61 2018年
2. アメリカ合衆国の建築評論家、文明批評家。歴史家。ジャーナリスト。さまざまな都市を踏査し、都市を研究した。現在の創造都市を語る場合の重要な人物である
3. ルイス・マンフォード 生田勉訳『都市の文化』鹿島出版会 / p473 1974年
4. ここで「美術」でなく「芸術」でもなく「ART」でもなく、カタカナの「アート」という用語を使用するのは、それが現在広範な市民権をもち汎用性と日常性、さらにはフェスティバルという性格上自然であるためである
5. 本記録集 p1 参照

## <sup>チャオズ</sup> <sup>カフェ</sup> CIAO's Cafe

CIAO's Cafeとは、大分にゆかりのあるアーティストを中心に、大分市中心市街地の空き店舗やカフェの店内、ギャラリーなどで展開したプロジェクト。回遊Cafe#204とカフェ・ギャラリーで構成されている。人々が集い、憩うまちの文化と歴史の積層が凝縮した喫茶店や、これから新しいまちの顔として動き始める空き店舗など、日常と非日常が交差する空間にアートが入り込み、鑑賞者が回遊することで作品、場所、人が出会い、新たなコミュニケーションが生まれることを目指した。

CIAO(チャオ)…

- ①イタリア語で親しいもの同士のあいさつ
- ②「Creative Innovation Artists in Oita(大分の創造的な革新アーティスト)」の略

### <sup>かいゆう</sup> <sup>にまるよん</sup> 回遊 Cafe#204

Oelectronica ————— 美術ユニット  
松田周作 ————— 建築家  
三浦 温 ————— 服飾デザイナー

### カフェ・ギャラリー

網中いづる ————— イラストレーター  
井川惺亮 ————— 現代美術家  
Kana ————— 美術家  
川島茂雄 ————— 竹工作家  
北村直登 ————— 画家  
ザ・キャビンカンパニー ——— 絵本作家  
汐月 顕 ————— 美術家  
芝田知明 ————— ステンレス職人  
箕河原 淳 ————— 木工作家  
西野正将 ————— 美術家・映像ディレクター  
森 貴也 ————— 彫刻家  
山本大補 ————— 画家  
ユキノ恭弘 ————— 芸術家

## 回遊Cafe #204

会場計画

松田周作(建築家)

世界的建築家・磯崎新氏を生んだ大分の地には優れた建築家の諸先輩方や若手の方々がいらっしやる中、「回遊Cafe #204 (回遊劇場)」に参加させていただきましたことに、只々、感謝をしている次第です。

「手を加えていない景色」をつくる

これが「回遊Cafe #204」において、私に求められた使命であったと考えておりますが、建築の修学者であれば馴染み深い、カルロ・スカルパのカステルヴェッキオ美術館に代表される比較的一般的な近代的建築手法で、普段の建築との向合い方の延長として、取り組むことができました。

「手を加えていない景色」、そうは言っても、目に触れる景色の床面や壁面の80㎡超は新たに施工した景色ですから、Olectronicaさんの作品が展示される会期中の来場者の「どこをやったの?何をやったの?」という言葉と、全てが撤去された空間に対するオーナーさんの「廃墟だったのが、良い空間になった」との言葉に、自身の建築家としての役割が果たせたのかなと、ほっとしている次第です。

多くの市職員の方々や関係者の皆様のお力添えをいただき実現した特別な時間でしたから、これを契機として、「建築」や「もの」の持つ力を信じて、作家としての更なる研鑽に努め、大分や大分の方々への恩返しができたらと思っている次第です。

関係者の皆様、来場者の皆様、本当にありがとうございました。

空間構成・什器デザイン

Olectronica (美術ユニット)

菅館長の案内で若竹ビル2階に位置する会場を初めて訪れた時、ここだ!と直感で思いました。階段を上ると、歴代の店舗が遺していった痕跡が壁や床、天井に、まるで絵画や彫刻のように至るところに刻まれていました。奥に広がる空間には遺跡のような空気感すら漂い、前面の通りや公園の清々しい明るさや府内の洒落たイメージとは異なる別の顔を目にしたようでした。都市の劇場化という今回の回遊型アートプロジェクトにおいて、まさに空き店舗は会場に相応しいと感じました。用意された、作られた舞台ではなく、遺された、現れ出たともいうべき場所。都市の隙間であり、移動を続けるテント芝居の小屋のように、次に店舗が決まるまでの時限的な舞台。痕跡という装飾。何もしなくてもいいくらいの場の存在感を感じ、この雰囲気を変えずに空間を作ろうと考えました。

舞台から次の舞台へと更新され続ける、劇場の仮設性に着目し、鉄棒と杉板を用いた可変可動する視線を遮らない什器によって会場を構成しました。特徴は線と面を自由に組み替えることで、さまざまな機能が生み出されることです。

今回使っていただいた方々の想像力によって面白い変化を繰り返していきました。2か月間の会期を通じてさまざまな舞台が繰り広げられたことをとても嬉しく思います。この実験的な試みは私たちにとって貴重な初めての経験となりました。

今回はこのような機会をいただき本当にありがとうございました。多くの関係者の皆様、そして来場者の皆様に心よりお礼申し上げます。



## 回遊Cafe #204

府内町2-4-15  
若竹ビル2F 204

### 松田周作

MATSUDA Shusaku (建築家)

### Olectronica

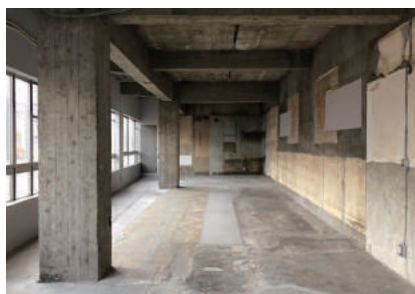
(美術ユニット)

### 三浦 温

MIURA On (服飾デザイナー)

回遊Cafe #204はCIAO's Cafeの拠点であり、インフォメーション、ギャラリーをはじめ日常的にイベントや交流が行なわれる場所として位置づけた。空き店舗を用途変更しオルタナティブスペースとして使用することは今回は非やりたいと思っていた。それは中心市街地に増えてきた空き店舗をアートの視点から、新たなまちの可能性として提案することでもある。見つかった物件はふないアクアパークに面した若竹ビルの2階。約85㎡ある細長い敷地とコンクリート打ちっばなしのワイルドな内装は、アーティストには魅力的な空間だろう。建築家の松田周作はその特性を活かし、床や壁の調整や電気、

水回りの整備などは最小限の加工にとどめて「手を加えていない景色」として提示。さらにOlectronica(加藤亮・児玉順平)はL字型、弧型、直方体などに溶接した大小の鉄棒と県産木材の板を組み合わせることで、テーブルや椅子として使用できるようにした。骨組と板だけのシンプルな構造物が空間の変化にフレキシブルに対応、さまざまな使い方が可能になった。展示されていた三浦温の作品もこの場になじんでいたし、最終日前日に行なわれたライブパフォーマンスでは三浦のファッションを纏ったヴォーカリストがこの空間をさらに魅力的な劇場にした。

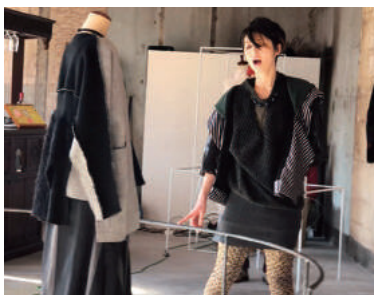




## カフェの日常

回遊Cafe # 204の運営は、ふくろうの森ビルの古山圭二に依頼した。障がい者の就労支援をものづくり、アート、カフェの運営など多面的な活動によって展開しているふくろうの森ビルは回遊Cafe # 204が目指す活動と重なる部分が多く、しかも今回の文化祭の方針と合致している。このスペー

スでは会期中ドリンクやスイーツの提供のほか、ワークショップ、音楽ライブなどのイベントが日常的に行なわれ、変容してやまない文字通り劇場のような革新性イノベーションと即興性インプロビゼーションを兼ね備えた交流と発信の場所となったのである。



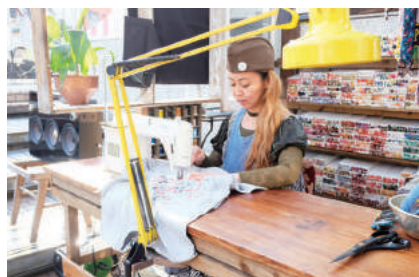
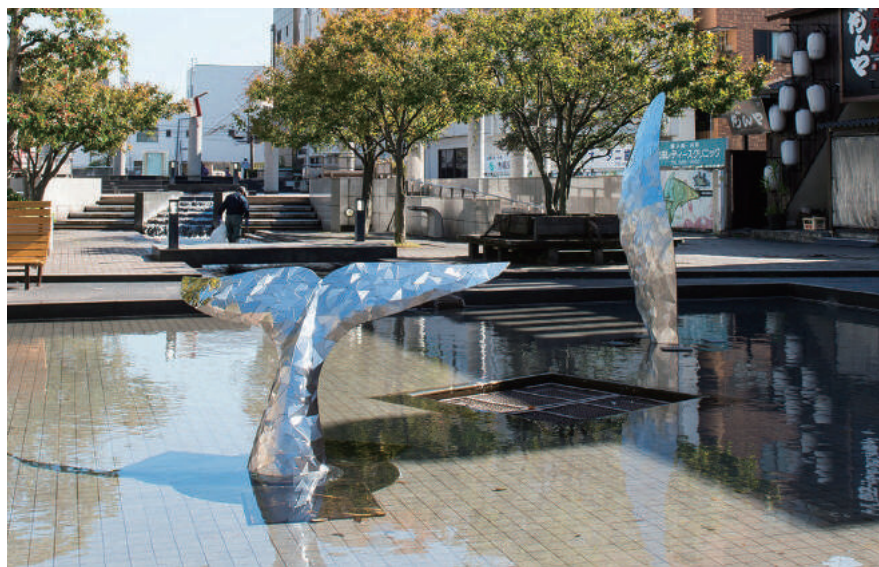
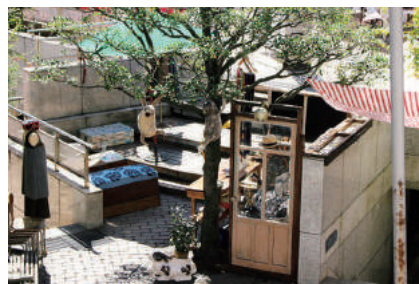
ライブパフォーマンス「ホントの時間」



三浦 温 作品展示







## 芝田 知明

SHIBATA Tomoaki (ステンレス職人)

### ふないアクアパーク

府内町 2-3

ふないアクアパークは「おおいたトイレンナーレ2015」の作品《メルティング・ドリーム》が設置されている公園として知られる。水をテーマとしたこの公園には噴水があり、都市のオアシスの空間である。芝田知明はその噴水にザトウクジラをモチーフにしたステンレスアート作品を設置。小さな三角形のステンレス端材をはりあわせ、鯨の尾緒と胸緒のダイナミックな造形

## 三浦 温

MIURA On (服飾デザイナー)

表現となっている。水面から立ち上がる多面体で構成されたメタリックな立体作品は、陽光や夜のイルミネーションを反射して清涼感を与えつつ、場に調和している。

また、ユニークなデザインで知られる服飾デザイナー三浦温は、自身のテーマ「ホントの時間」を公園内に設置した屋台でルーティーンワークとして展開。屋台の周辺にはベンチやテーブル

も置かれ格好の休息所となっていた。背後のカラフルなボタンのストックやネクタイ、さらには木にぶら下がったナマケモノのぬいぐるみなどが日常と非日常を行き来する不思議なアイテムとなっている。天気の日にはほぼ終日作業をする三浦の姿が公園の景色になじみ、非日常が日常になる不思議な現象を呼び起こしたように思う。



## カフェ・ギャラリー



## ザ・キャビンカンパニー

THE CABIN COMPANY (絵本作家)

ザ・キャビンカンパニーは近年絵本作家として全国的に注目されているユニットで、絵本制作とオブジェや原画などによる展覧会で、活発な活動を全国で展開している。今回の展示は、新作絵本『ほーほー』の原画を中心に店内の壁に展示をすると同時に、これまでに制作してきた、絵本の世界から抜け出したような動物の顔などのオブジェ作品を店内の至る所に配置した。アンチームな店内にとけこみ全く違和

感がないため、最初から店内にあったと錯覚するほど自然であった。

また、会期中のイベントとして大分市美術館で開催した絵本の読み聞かせイベントには多くの家族連れが集まり、大盛況であった。廃校になった小学校を拠点として活動する彼らの戦略は美術館やギャラリーだけでなく、図書館やオルタナティブスペースでも発揮されるだけに今後の活躍が楽しみである。



絵本カフェみちくさ  
府内町3-7-28



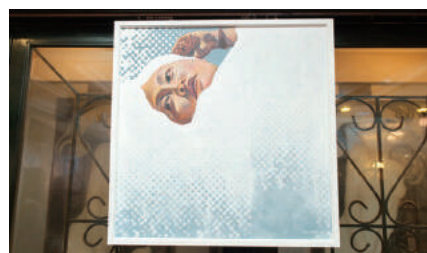




## 山本大補

YAMAMOTO Daisuke (画家)

カフェ・ドBGMはセントポルタ中央町にある創業50年以上になる喫茶店である。モーニングサービスから夕食までとることができるこの店舗は、常連客のオアシスのような存在で、ゆったりとした時間が流れる。店内は大理石調の壁、アール・ヌーボーが得意とした鉄の曲線窓や装飾的な照明などヨーロッパ調の雰囲気を醸している。山本大補は近年独特な描写表現とモダンな構成で注目されつつある若手画家。構図と色面などに特徴があり、単なる描写表現とは一線を画している。やや暗い店内だが山本のキレイのいい描写による絵画は、壁になじみながらも埋没することなく目に飛び込んでくる。モチーフは人物4点、花・樹木6点の計10点。ほとんどが旧作であるが、店内の壁面に合わせた作品をセレクトし不思議な調和を見せていた。



## カフェ・ドBGM

中央町1-1-13 森村ビル2F

## ユキノ恭弘

YUKINO Yasuhiro (芸術家)

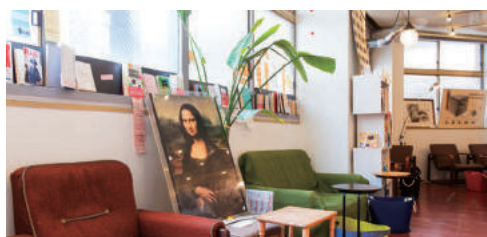
カモシカ書店は古書に囲まれドリンク、軽食が楽しめる、懐かしく落ち着いた雰囲気のお店である。創業100年を超える老舗、岩尾洋装店の2階をリノベーションした話題のスペースで、2014年のオープン以来、大分の古くて新しい文化発信基地となっている。

ユキノ恭弘は絵画を中心にドローイ

ング、オブジェなど11点を展示。達者な風景画やドローイングは新世紀群時代の芸術少年の名残を感じさせる。またチューインガムハンガーなどマン・レイを思わせるダダのオブジェも展示。雑然とした店内にユキノの作品が紛れることで展示空間そのものが日常と化す。一癖も二癖もある彼の仕掛けに

よって、ダダの精神をもったコンセプトの術中にはまるのが心地よい。

会期中、2001年に実施した伝説的パフォーマンス「チューニング：調律」の上映イベントも行ない、ユキノ自身の解説を聴くことができる貴重な機会となった。



**カモシカ書店**

中央町2-8-1-2F





## 西野正将

NISHINO Masanobu (美術家・映像ディレクター)

西野正将は東京で活躍する若手美術作家。今回の展示では旧作と新作の映像作品をそれぞれ1階、2階のモニターで放映した。1階はコーヒーやドーナツ売り場のレジがあり、通りから気軽に立ち寄れるカフェスペースである。ここでは短編映像16本が上映されている。いずれも西野独自の視点で日常の中に潜む思いがけない瞬間をフレームで切り取っている。

一方、2階は穴場的な空間で、特に窓越しのカウンターはこのまちの景色を知る特等席のようだ。西野は2階でこの場所ならではの新作映像《Mio Bar》(ミオバール:私のとまり木)を制作した。それは竹町と中央町が交差する場所の地霊とでもいえそうな歴史を、うずもれた日常から呼び起こす作業ともいえよう。ガレリアとセントポルタという交差するモールはイタリア語とポルトガル語からなっており、我々の無意識にまといつた日常の襞が剥がされてゆくモメントである。



《Mio Bar》より



**COFFEE KAISHODO**

中央町1-4-15-1F、2F

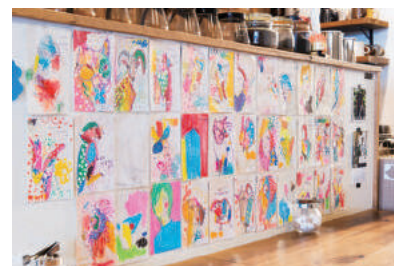




## 北村直登

KITAMURA Naoto (画家)

北村直登はオリジナル自家焙煎コーヒーを提供する店 Coffee Shop hazeでの展示を行なった。すでに北村の旧作絵画2点が壁を飾っている店内に新たな作品を追加するうえで、北村はコーディネーターの山口祥平と相談し、これまでにない表現を行なった。それは店内のテーブルを北村が描いたタブローで覆うというもの。この思いがけない展示方法で店内の6つのテーブルが動物や花、装飾を中心とした彼のイメージに染まっていく。テーブルは透明なラッピングで保護されているが、本来触ることはもちろん、上に物を載せることはNGである。客はコーヒーカップ、コップ、ワンプレートランチの皿を載せることに違和感を覚えながら、間近で作品と対話をするという贅沢な体験をする。また、カウンターには夥しい数の絵葉書サイズの作品が貼られ、さまざまな北村ワールドに浸ることができた。



### Coffee Shop haze

大手町2-2-8 アイビル1F



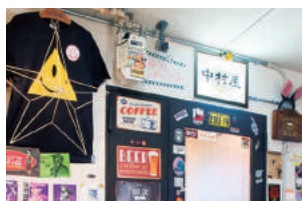


## 汐月 顕

SHIOTSUKI Ken (美術家)

汐月顕が作り出す絵画は、ポスターが幾重にも張られた壁やコンクリートの古い壁など、現実に存在する壁との類似的な画面作りによって都市の風景を垣間見せてきた。コピーやコラージュ、ステンシルなどによってつくられたマチエール、文字、数字などの記号が重層的に塗り込まれた画面は、ラウシェンバークやジャスパー・ジョーンズが都市の中で見つけたイメージにつながる絵画の行為の痕跡と物質との同化を感じさせる。

中村屋はフィギュア、プラモデルなどのマニアックなグッズや、アンティークな家具などに囲まれた独特な雰囲気を醸すカフェとして、愛好家たちの溜まり場になっている。汐月の壁一杯の作品が設置されると、店主や常連客のテンションが一気に高まった。汐月もいわゆるフィギュアやアイコン的な嗜好を持った作家であり、アーティストと店のテイストがまさに同期する接点を感じられた。



## 中村屋

府内町1-6-41 ヒロセビル3F 301





## 芝田 知明

SHIBATA Tomoaki (ステンレス職人)

府内五番街の絶好の位置にあるこの店の空間は完成度が高く、通りからガラス越しに見える店内はお洒落で、このまちのインテリジェントな住人がカウンターを陣取っている。何とかここで展示をしたいと考えたが、何かを付け加えたり、引いたりする余地はなさそうであった。コンクリートの壁にはグラフィティのような絵が描かれ、他の絵画を寄せ付けない。そこで、むしろ立体、しかも映り込み反射するステンレスアートの芝田知明しかいないと考えた。芝田はカウンターに蟻と珈琲豆のオブジェを、その上部にある棚にコーヒーの木の花を設え、天井には球体につながれたトンボの群れを吊り、壁には文化祭の地域テーマ「出会いの場」「祈りの谷」「耕す里」「豊かな浦」「水の森」を表現した。ステンレスを自在に加工し有機的な造形を生み出す芝田の職人技術は完成されたLLOYDの空間を際立たせたのだった。



### LLOYD

府内町2-2-1 名店ビル1F 103







## 網中いづる

AMINAKA Izuru (イラストレーター)

大分銀行赤レンガ館の空間を見た網中いづるは、通常得意とするカラフルなイラストレーションよりも、大きいサイズでモノクロームのドローイング作品にしたいと語った。リニューアルしたばかりの綺麗な白壁を持つ空間と、カフェやセレクトショップに人が集まるこの場所では、通常の額縁に入ったような作品ではインパクトが弱いと判断したのであろう。赤レンガ館での展示はドローイング原画を拡大してカッティングシートに印刷したものを貼り付けるという手法だが、それでも、現実空間の巨大スケールでのドローイングはまるでリノベーション時にその場で描いたかのような、生き生きとした鼓動を感じさせた。《花の庭》と題されたドローイングは少女の不安をテーマにしたもので、『不思議の国のアリス』の主人公が庭を駆け抜けていくイメージを表現したもの。



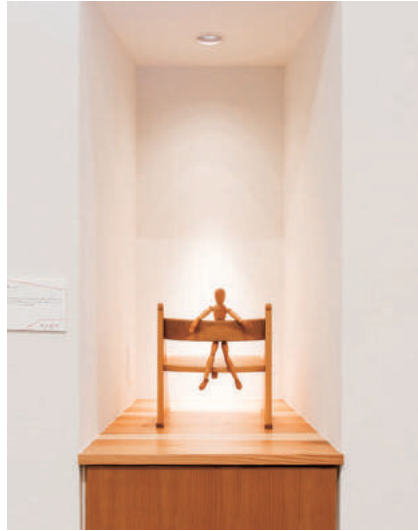
## 大分銀行赤レンガ館

府内町2-2-1



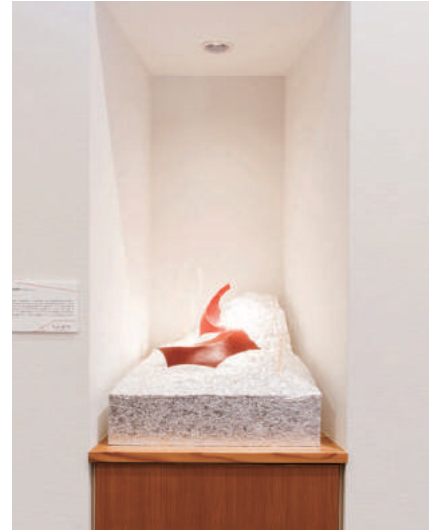
## 森 貴也

MORI Takaya (彫刻家)



## 簀河原 淳

SUGAHARA Jun (木工作家)



## 松田周作

MATSUDA Shusaku (建築家)

大分銀行赤レンガ館は国の登録有形文化財であり、現在はATMが2基稼働している。以前は10基ほどATMがあったが、それ以外の空間はほとんど使用されず、シャッターで閉ざされていた。大分銀行の歴史を語るうえで重要な建築を創造的に活かすカフェやOita Madeというセレクトショップ、イベントエリアを備えた新たな文化エリアとなったことで、ATMのブースは小さな展示コーナーの役割を果たす空間に感じられた。そこで、このブースを今回出品するアーティストの中で立体や彫刻的表現をする作家の小品展示コーナーとして位置づけ、彫刻の森貴也、木工の簀河原淳、建築の松田周作、インスタレーション彫刻のOelectronica、竹工の川島茂雄、ステンレスアートの芝田知明の小品=オブジェを展示紹介した。ジャンルや表現を異にする作品は、インフォメーションでもある赤レンガ館のアンテナショップの役割も担った。



## 大分銀行赤レンガ館

府内町2-2-1

## Oelectronica

(美術ユニット)



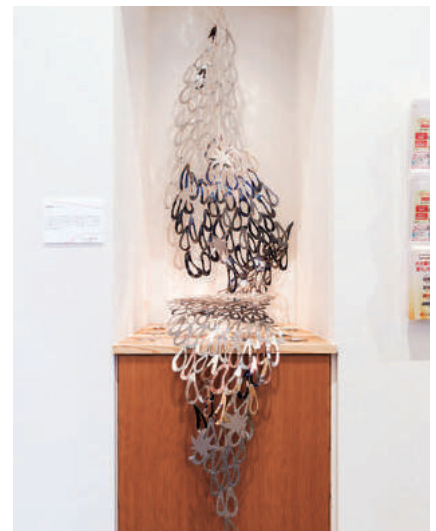
## 川島茂雄

KAWASHIMA Shigeo (竹工作家)



## 芝田知明

SHIBATA Tomoaki (ステンレス職人)







ソフト  
スカルプチュア

竹工

## Kana

(美術家)

## 川島茂雄

KAWASHIMA Shigeo (竹工作家)

Kanaは布やスパンコールなどを使用したソフトスカルプチュアで「ちえりっこ」(うさぎ)をはじめさまざまな動物を制作してきた。一方、川島茂雄は竹を使用した大掛かりなインスタレーションや造形作品を手掛ける竹工作家で、その自在なスタンスは現代美術や建築とのコラボレーションも行なってきた。今回の2人のコラボレーションでは毛糸や布を主要な素材とするKanaの構造部分を川島が受け持つことで、これまで不可能だった大型作品が実現できた。高さ4メートルに達する「ちえりっこ」はソーリンスクエアの天井まで届く過去最大のスケールとなった。

また、竹をリング状にして繋げた川島のインスタレーションにKanaのカラフルな毛糸のチューブが絡まるインスタレーションはワークショップによって完成したもので、ここでもコラボレーションによる新たな作品世界が展開していた。



大分銀行宗麟館 2F  
ソーリンスクエア

東大道1-9-1-2F



絵画 × 彫刻

**井川惺亮**  
IKAWA Seiryō (現代美術家)

**森 貴也**  
MORI Takaya (彫刻家)



井川惺亮は三原色を中心とした色彩で、紙に鮮やかな筆のストロークを走らせる。また同じく彩色された紐を張りめぐらせ、空間を分節する。これも井川特有のインスタレーションである。

一方、鉄の彫刻で知られる森貴也は、2018年から建築の構造検査などの実験で使用するプレス機械で丸太を圧縮して割った作品に取り組み、新作を出品。これまで2人は何度かグループ展で同じ空間を飾ったが、今回の展示は、2人の初コラボレーション。ほとんど現場の作業での決定だった。会場の中心には森の作品が至る所に並び、周囲をカラフルな井川の絵画インスタレーションが囲み、予定調和とそれを崩す両者のインタープレイが感じられ面白かった。また、もう一方の壁面には会期前日にワークショップで長さ10メートルの2セットの紙に子どもたちと制作したカラフルな作品も展示し、オーケストレーションという言葉が思い浮かんだ。



**大分銀行宗麟館 2F**  
**ソーリンスクエア**

東大道1-9-1-2F



## 北村直登

KITAMURA Naoto (画家)

## 箕河原 淳

SUGAHARA Jun (木工作家)

立体 × 木工

箕河原淳は木工作家として、家具、什器などを手掛けてきた。素材を活かした手作りの椅子やテーブルには多くのファンがいる。一方、カラフルな即興的絵画表現が特徴的な北村直登も大分のアートシーンで独自の位置を占めており、2人のコラボレーションがどのように展開するか興味深かった。箕河原はオリジナルのテーブル作品の他に、材木の素材を活かした台やイノシシ、杉の木をイメージした木彫オブジェなどを出品。通常の木工から踏み出したアート寄りの表現となった。

北村はそれに呼応するかのように紙にアクリル絵具で着彩したイノシシ、フクロウ、ペンギンなどのオブジェを合わせていったが、箕河原の木に寄り添うような優しさを感じる融合が見られた。今回の展示はメディアも表現も全く異なった2人が、協調と刺激によって新たな境地へと踏み出した感がある。



大分銀行宗麟館 2F  
ソーリンスクエア

東大道1-9-1-2F





## 井川惺亮

IKAWA Seiryō (現代美術家)

井川惺亮の3原色を中心に、そこから派生する純色をシステムティックに着彩する手法は、壁に掛ける既存の絵画の枠を超え、現実空間の中で解体・再構築するインスタレーションへと展開。時にそれは紙や布という素材を離れて、折れた枝、家具など立体を色彩で覆う自在さを持つ。今回もギャラリーの黒い外堀に設営した鮮やかな流木や枝のオブジェが輝いていた。

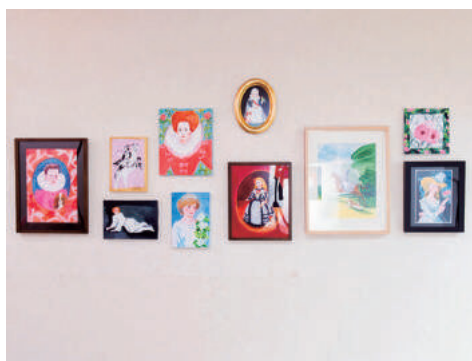
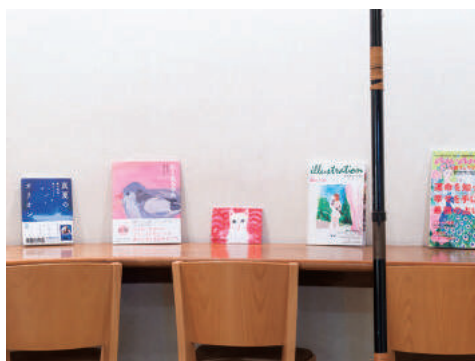
ギャラリー内では木枠に貼られたキャンバスに描かれた9点のカラフルな絵画を展示。そのうちの1点は壁から外れたコーナーの床に置かれ、絵画と現実を往来する。アクリル絵具の表面からは思わせぶりのマチエールや作為が全く感じられず、軽やかな色彩の愉悦感に満ちている。ドリップングやストロークなど多様な表現ながら制度や先入見にとらわれず、絵画の本質を問い続けてきた井川の作品には、無垢な子どもの純粋な感性と気高く洗練された美のエスプリが共存している。



### ギャラリーおおみち

大道町1-2-16





## 網中いづる

AMINAKA Izuru (イラストレーター)

支配人が長年培ってきた眼力とセンスで選び抜かれた珠玉の名作映画を上映する大分市唯一のミニシアターシネマ5は、マニアックな映画ファンのメッカとして親しまれている。ここの待合室には上映時間前後にコーヒーを飲んだり会話をしたりするテーブルと椅子がある。そのコーナーの壁に網中いづるのイラストレーション原画作品11点を展示した。東京都内で発表した作品のシリーズを再構成した内容で、小ぶりながら美しい色遣いとライブ感あふれる筆のストロークなど網中の特長がよく出ており、ランダムな展示方法も効果的であった。ダイアナ妃やエリザベス女王など著名人のポートレートモチーフに、ファッションの視点で発表したこのシリーズは、映画館という劇場にお洒落な雰囲気と物語を呼び込み、私たちの想像力を刺激する触媒の役目を演じていた。



### シネマ 5

府内町2-4-8-2F





## Kana

(美術家)

## 芝田知明

SHIBATA Tomoaki (ステンレス職人)

田崎洋酒店は府内五番街のはずれにある角打ちができる酒屋で、まちの住人をはじめ文化人などのさまざまな客が夜な夜な集うスポットである。ここでは大分市美術館主催のアートフルロードプロジェクトで勝正光による似顔絵企画などを実施してきた。今回はKanaと芝田知明が参加。Kanaのカワイイ「ちえりっこ」のぬいぐるみと芝田のステンレスアートが対照的に店を飾る。Kanaは小ぶりな「ちえりっこ」を店内の至る所に忍ばせるとともに、オーナーのママのエプロンを2種類制作。一方、ステンレスアートの芝田は彼の地元安心院にちなんで葡萄の枝を中央のワイン棚に設え、放射状に葡萄をめぐらせた。ところどころ葡萄の実や葉がゴージャスなきらめきを発するが、店内の雰囲気やに溶け込み、常連客でさえその存在を忘れるほど自然に空間と調和していた。



## 田崎洋酒店

府内町2-6-16 田崎ビル1F

## ウォールアート

ビルの壁面やシャッターに描いた壁画、大分県立芸術文化短期大学を中心に市民と制作したモザイクアート、バス停を飾るグラフィック作品などをまちなかに設置し、日常の風景に色を加えた。

### 壁 画

谷川広人 ————— 画家

宮崎勇次郎 ————— 背景絵師

芳賀健太 ————— 画家

### モザイクアート

大分県立芸術文化短期大学

市内10校の小学校

市民

### バス停ポスター・パナー

蜷川実花 ————— 写真家・映画監督



## 壁 画

## 谷川 広人

TANIGAWA Hiroto (画家)

## 《めぐる》



谷川広人の絵画はある種仏教的、東洋的な世界観に支えられ、これまでも大画面による発表が試みられ注目していた。骨太な描写力に期待して今回、シャッターへの描画を依頼した。場所は竹町通商店街と並行した裏通りだが、5年ほど前に倉庫を改装してオープンしたレストランや、古いがモダンな空き家マンションがあるエリアのそばの駐車場のシャッターである。閉じられたシャッターはT字路が突き当たる場所で、人があまり意識することが

ない。そこに谷川は青鷺や蓮、カワセミ、トンボなどを装飾的かつリアルな表現で描いていった。ウルトラマリンと白を基調にしたその図柄は、殺風景だった空間を不思議な和のテイストで彩った。残暑と台風の到来など天候に恵まれず思ったように制作が進まなかったが、まちゆく人との会話も含め、ここにも出会いの場、コミュニケーションの機会が数多くあった。



## 親進舎ガレージ

中央町3-2-21



## 宮崎勇次郎

MIYAZAKI Yujiro (背景絵師)

### 《NEW WORLD 府内富士》



#### 金剛ビル

府内町2-6-14

アートプラザでの個展「<sup>だいおいたず</sup>大大分図」の制作にかかっていた宮崎勇次郎に壁画制作の依頼をしたのは6月中旬であった。宮崎は東京で活躍する画家で、自身は背景絵師と名乗ることが多い。候補地が決まり、サイズなどのデータを送ると、数週間後には原図が完成し、CGデータで送られてきた。それは青空の背景に富士山と松島が合体した風光明媚な日本の原型的な景色で、富士の上空には虹がかかり、銭湯画を想起させる、のどかで平和な懐かしい光景であった。宮崎は8月下旬に取り掛かり、わずか1週間で完成させた。猛暑厳しい時期、午前中と日没前に集中して制作した。鮮やかな銭湯の背景画が突如まちなかに出現すると、商店街の住人や通りを行き交う人が次第に注目し、マスコミも取材に訪れた。自らが銭湯を営む家に生まれ育った宮崎は、この場所が人々のコミュニケーションの場として親しまれることを意図したのかもしれない。

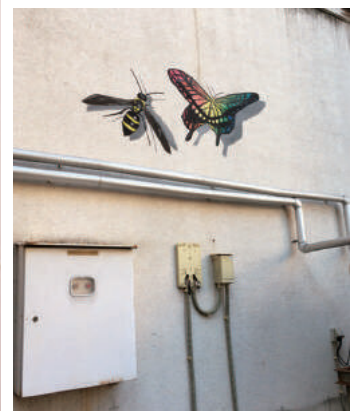




## 芳賀健太

YOSHIGA Kenta (画家)

### 《ゆめつくり虫～ DOROBACHI STORY～》



画家芳賀健太は一方で「空間ペインター」と自ら名乗り、公共の壁画制作などを手掛けてきた。今回依頼した場所がかつての歓楽街相生町の飲食ビルの壁と空き店舗となった通路。円形の穴があるビルはいかにもかつての飲食ビルらしい特徴的な意匠だ。芳賀は穴の開いたビルがドロバチの巣に似ていることから発想を広げ、そこに蜂（ドロバチ）とアゲハ蝶の幼虫を対比的な存在に見立て比喩的なストーリーとして展開した。通路の奥に進むにしたがって物語が展開する仕組みになっている。のどかな田園風景の中のゆめつくり虫（幼虫）と都会の歓楽街のドロバチの存在は、ともに我々人間の本性と重なる部分があり考えさせられる。相反する2匹が創り出す景色を通じて、生きるという意味を問いかけているようだ。



岩尾ビル  
中央町2-6-23

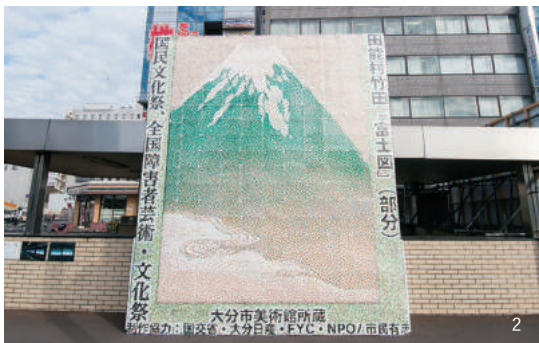


## モザイクアート

2015年から大分県立芸術文化短期大学（芸文短大）が主催して行ってきた巨大モザイクアート展を発展させ、芸文短大と大分市内10校の小学校の児童や、市民が連携して、大分市美術館所蔵作品の中から大分を代表する画家、田能村竹田、福田平八郎、高山辰雄、宇治山哲平のモザイクアート作品を新たに5点制作した。JR大分駅の府内中央口広場付近に設置したこの5点のほか、大分きゅんバスルートにも旧作3点、JRおおいたシティの屋上庭園にラグビーワールドカップ関連の作品1点を設置した。モザイク画は1枚4.5m×3.5mの巨大なもので、そこにカラーチップ157,500ピースが学校や市民の参加協力によって1枚1枚貼られ、市民参加のアートワークとして回遊劇場における書割的背景となって、文化祭全体を盛り立てた。



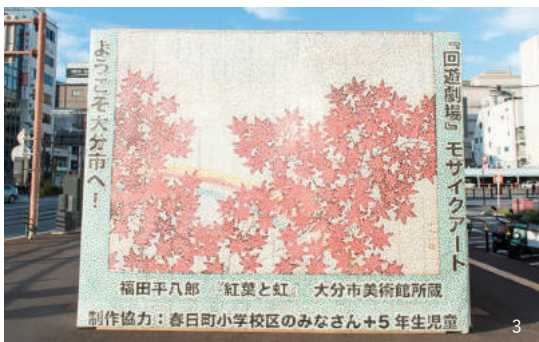




制作協力

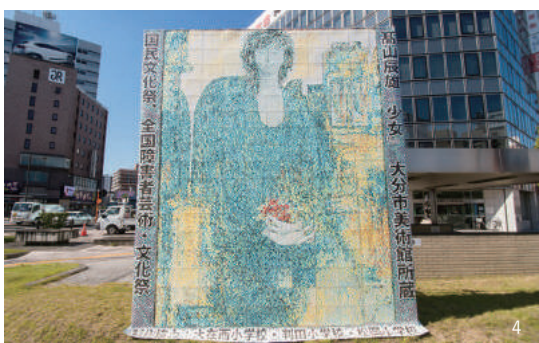
田能村竹田 《富士図》

国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所 大分県大分土木事務所 公益財団法人大分県建設技術センター 大分市市民活動・消費生活センター（ライフバル） 公益財団法人おおいた共創基金 大分日産自動車株式会社 株式会社エフ・ワイ・シー 中島西自治会 金池校区児童育成クラブ モザイクワークショップ参加の皆様（118人） Cat's Eye しゃぼらん ボランティアグループつわの花 中島むつみ会 学びの協働隊 道守大分会議 障害者自立生活センター ぱり FLAT おおいた 自立生活センター宇佐 自立生活センター由布 NPO 法人おおいた NPO デザインセンター NPO 法人大分県ノルディック・ウォーク連盟 NPO 法人ジョブチャレンジサポート OITA NPO 法人自立支援センターおおいた NPO 法人地域ひとネット



福田平八郎 《紅葉と虹》

春日校区民生委員協議会 春日校区公民館 王子西南子ども会 春日町小学校家庭教育学級くれよん 春日町小学校読み聞かせ交流会マザーリーズ 春日町校区有志の皆様 春日町小学校5年生児童



福田平八郎 《鯉》

大在小学校 坂ノ市小学校 明治小学校

高山辰雄 《少女》

大在西小学校 判田小学校 松岡小学校

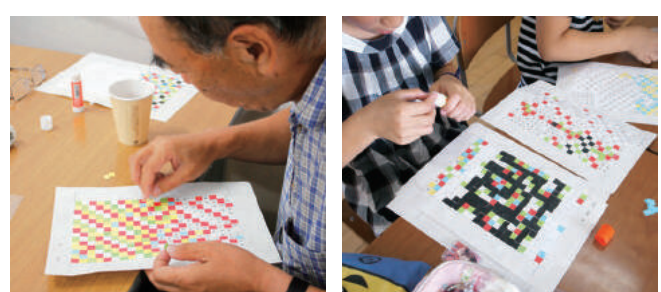


宇治山哲平 《精 No.367》

明野北小学校 寒田小学校 南大分小学校 明治北小学校

《ラグビーワールドカップ》

明野北小学校 大在小学校 大在西小学校 坂ノ市小学校 寒田小学校 判田小学校 松岡小学校 南大分小学校 明治小学校 明治北小学校



1. 福田平八郎 《鯉》
2. 田能村竹田 《富士図》
3. 福田平八郎 《紅葉と虹》
4. 高山辰雄 《少女》
5. 宇治山哲平 《精 No.367》
6. 《ラグビーワールドカップ》



# バス停ポスター・バナー

## 蛭川実花

NINAGAWA Mika (写真家・映画監督)



大きキャンバスのルートエリアにはシテイスケープ®という広告と待合所が一体となったバス停がある。巨大なウォールアートと比べると小ぶりではあるが、都会的な設えのバス停にビジュアルなポスターを掲示することで、フォトジェニックな都市の劇場空間の展開が可能になる。

バナーをウォールアートとして展開しようと考えたのは回遊劇場が都市において機能するにはそれなりの舞台が準備さ

れなければならないからであった。

当初、中心部のビルや工事中のスクリーンに巨大バナーを掲示することを企画し、いくつかの場所を検討したが、最終的に屋外での掲出を断念し、J:COM ホルトホール大分の吹き抜けがある階段の壁に設置することにした。この場所はこの施設の象徴的な場所であり、多くの来館者はこの階段を昇降し、それぞれの目的地へと向かう。

### バス停ポスター

荷揚町、昭和通り、オアシスひろば前、大分市役所・合同新聞社前、中央通り③トキハ会館入口



### バナー J:COM ホルトホール大分 金池南 1-5-1





## 市民参加アート

### 障がい者施設アート作品展 イベント アートツアー

市民が参加できるプロジェクトとして、障がいのある方の作品展示をはじめ、回遊劇場参加アーティストによるワークショップなどのイベントやアートツアーを行なった。

#### 障がい者施設アート作品展 参加事業所（者）

一般社団法人 あらやしき やまねこ工房

一般社団法人 大分ゆたかの会

一般社団法人 SW ライフ サマン春日

合同会社 ハートブリッジ L.L.C.ハートブリッジ プレジヨブセンター

社会福祉法人 暁雲福祉会

社会福祉法人 幸福会

社会福祉法人 シンフォニー

社会福祉法人 新友会

社会福祉法人 杉の木会

社会福祉法人 ハーモニー

社会福祉法人 萌葱の郷

社会福祉法人 夢・ひこうせん

特定非営利活動法人 ゆう 作業所ゆう

## 障がい者施設アート作品展



## ふくろうの森ビル大茶会

一般社団法人あらやしき やまねこ工房

### 参加事業所(者)より

人と街のつながりをテーマに、アート・音楽・食・花・マンガ・美容・雑貨などの複合イベントによる集客と、ビル全体を回遊する展示のしくみを柔軟に行ないました。

各分野の融合による相乗効果と、国民文化祭大分市リーディング事業の回遊Cafe#204との情報共有によって、スタッフ(利用者)全員参加の楽しい作品展となりました。

今後も日常の活動の中で地域の文化拠点となることを目指していきたいと思います。

会場：ふくろうの森ビル

開催日時：10月6日(土)～11月25日(日)  
月～金 / 10:00～17:00  
土・日・祝 / 11:00～17:00

### 出展作品

- 絵画
- 工芸品 編み物
- 洋裁 バック・洋服
- JAZZミュージシャンコラボ作品機織コースター
- 手縫いかおり袋
- 木工作品 本棚・小物
- 花屋そらうみコラボ作品 ハーバリウム リース
- 手作りアクセサリ



## 自閉症の世界へようこそ

社会福祉法人 萌葱の郷

障害者支援施設 めぶき園

生活介護事業所 なごみ工房

障がい福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい

### 参加事業所(者)より

あらかじめ会場に設置されていた丸太椅子なども活用させていただいたことで、会場と作品が一体になった空間となり、さらに、会場の窓が大きかったため日の光が差し込み、とても雰囲気の良い会場

となりました。

当初は展示期間が短いのではないかと、との懸念もありましたが、メディアの取材を受けたこともあり、多くの方にご来場いただき、作品を鑑賞

会場：九州電力(株) 大分支社  
本館1階 Q でん広場

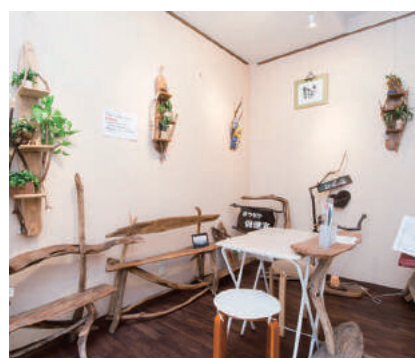
開催日時：10月7日(日)～12日(金)  
8:30～18:00

出展作品

- 絵画及び作品ファイル
- 陶芸
- 機織り(加工品含む)

していただきました。また、会場内のみならず、外から展示作品を眺められていた通行人の方も多くいました。





## 創造と再生の森

合同会社ハートブリッジ

### L.L.C. ハートブリッジ プレジョブセンター

#### 参加事業所(者)より

就労支援の一環として、流木など木の特性を活かした工芸品の制作に取り組んでおり、その作品を自由に観覧できるよう店内に展示しました。

定期的に配置変更を行ないながら展示していたこともあり、期間中は多くの方に観覧に来ていただき、観覧者の中には作品に興味関心を持ち、熱心に質問される方もいました。

自分の制作作品が展示され、それに関心を持たれることは、作品の制作意欲にもつながることから、大変有意義な作品展でした。

会場：L.L.C.ハートブリッジ  
プレジョブセンター

開催日時：10月9日(火)～11月22日(木)  
11:00～15:00 土・日・祝 休み

出展作品

○ 工芸品



## アートな手仕事展「サマン春日」

一般社団法人SWライフ サマン春日

### 参加事業所(者)より

日々の作業で制作した革細工、手工芸、写真、貼り絵を含む絵、切り絵などの作品と、その作業風景を写したパネルを展示しました。

タイトルや解説などを含むすべての展示品は、作品をどのように表現したらよいのかなどと一緒に確認し、そして心を込めて丁寧に作り上げています。

また、このような活動の場がどのように彼らの生活を支え、自立に向けた社会との繋がりをひろげていっている様子なども、多くの皆様に知っていただける大変有意義な展示会にすることができ、とても嬉しく感じています。

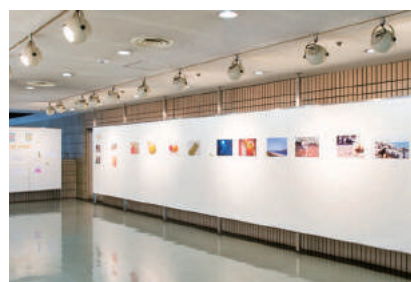
会場：コンパルホール 市民ギャラリー

開催日時：10月12日(金)～17日(水)

9:00～22:00

### 出展作品

- 絵画
- 革細工
- 手工芸
- 写真
- 切り絵





## 風人展～たったひとつの尊いのち～

ぎょううん  
社会福祉法人 暁雲福祉会

### 参加事業所(者)より

風人展とは当法人が20年以上前から取り組み、アートセラピーなどで描きためた作品展の総称で、今回で19回目の開催となります。

思いのままに筆を運び、思いのままに色をのせた作品から伝える物語。開催期間中に725名の皆様がご来場くださいました。

特に絵画の分藤明男さんの作品は専門領域の方々からも高い評価を得ました。「たくさんの人に見てもらえてうれしいですよ。」と明男さん。

これからも、みんなの表現のすばらしさ、伝えたい想いを発信してまいります。

---

会場：大分市美術館 研修室  
開催日時：10月16日(火)～28日(日)  
10:00～18:00

---

### 出展作品

- 絵画
  - 書画
  - 写真
  - 押花作品
-





## 4 法人作品展

- 社会福祉法人 **杉の木会**
- 社会福祉法人 **幸福会**
- 社会福祉法人 **新友会**
- 社会福祉法人 **シンフォニー**

### 参加事業所(者)より

今回、コンパルホールにおいて4法人合同での作品展を開催し、多くの市民の皆様に、障がいのある方たちが制作した作品を見て楽しんでいただくことができました。

作品展の開催により、施設利用者の方も創作意欲が高まり、展示されている自分の作品を見た時は目を輝かせ、笑顔になっていましたし、一般の方も作品を観覧していただくことで、障がいを持った方々の独自の感性や世界観を垣間見ていただけたと感じています。



会場：コンパルホール 市民ギャラリー  
 開催日時：10月22日(月)～29日(月)  
 9:00～17:00

- 出展作品
- ちぎり絵
  - 貼り絵
  - ジオラマ
  - 絵画
  - 書



## はたらく

社会福祉法人 夢・ひこうせん

### 参加事業所(者)より

大分銀行本店の北側入口を入ったスペースにパーテーション3枚を並べ、その両面に絵画を飾りました。額装して飾ることができましたので、絵の見栄えもぐっと増して、良い展示ができました。通路を挟んで対面側に長テーブルを2脚置き、その上に木工作品を並べて展示しました。

テーブルの端には夢・ひこうせんを紹介するチラシを置き、今回の展覧会名にもしている「はたらく」こと、そして仲間の大切さを観覧者にも感じてもらいました。

---

会場：大分銀行 本店  
開催日時：10月30日(火)～11月9日(金)  
9:00～15:00

---

### 出展作品

- 絵画
  - 木工
-





## 垣根のない作品展

社会福祉法人 **ハーモニー**

### 参加事業所(者)より

初日は切り絵を制作したご利用者様に同席していただきました。来場者から自分が作成した作品の感想を直に聞くことができたので、とても喜ばれていました。

もう少し目立つように掲示物の配置を考えていけば、来場者が増えたかもしれないと感じています。

また、今回作品展を開催したことで、一般の方に見ていただける喜びを感じることができ、また、このような機会があればと話しています。利用者様の創作意欲が上がるように支援していきます。

---

会 場：コンパルホール 市民ギャラリー  
開催日時：11月5日(月)～7日(水)  
10:00～17:00

---

### 出展作品

- 絵画
  - 切り絵
  - 詩
  - 貼り絵
- 





## こんにちは ゆうです 展



### 特定非営利活動法人 ゆう 作業所 ゆう

#### 参加事業所(者)より

“こんにちは、ゆうです”を合い言葉に活動しています。  
この作品展も、たくさんの方々と出会いたいと、  
22年目にして初めてチャレンジしました。

いつもの様子も知っていただこうと、“作業所ゆう”  
を丸ごと大分市美術館にワープして、ワークショップ  
も企画しました。

会場内で、ゆったりとアート布巾や刺し子布巾を  
縫う仲間達。そんな様子を声をかけてくださったり、  
ワークショップに参加してくださり、一緒に縫いなが  
ら、ひとときを過ごされる方もいらっしゃいました。

また、常識にとらわれない作品の魅力を受け止め  
てくださった方、感想をくださった方ありがとうござ  
いました。嬉しい6日間となりました。

会 場：大分市美術館 研修室  
開催日時：11月13日(火)～18日(日)  
10:00～18:00

#### 出展作品

- 絵画
- 工芸品
- 書
- 合作
- フラッグ





## 手作り木のおもちゃ

一般社団法人 **大分ゆたかの会**

### 参加事業所(者)より

展示会場の雰囲気良さにも後押しされ、非常に格調高い展示ができたことは大変ありがたいと感じました。

観覧者からは作品のお問合せをいただいたり、パンフレットをお持ち帰りいただくなど、意識や関心の高さも感じられました。また、思いのほか激励のお言葉も多くいただきました。

このような機会をいただき、多くの方々へ、当施設が目指す「手作りの良さ」を表現することもできました。

これからも福祉事業の普及を更に積極的に取り組みたいと思います。

会 場：大分銀行 本店

開催日時：11月19日(月)～22日(木)

9:00～15:00

### 出展作品

- 木のおもちゃ
- トールペインティング
- 松ぼっくりツリー



## イベント

6月28日(木)

### 回遊劇場100日前イベント

「ひらく・であう・めぐる

～まちなか回遊型アート展を一緒につくりませんか～

施工前の拠点候補地（後の回遊Cafe #204）にて菅ディレクターが「回遊劇場～ひらく・であう・めぐる～」の構想発表および事業概要を説明。「あなたの自慢したい大分の魅力」をテーマとして、回遊劇場の協力者であるプレゼンターが各自のこれまでの活動と、活動を通して気づいた大分市の魅力を紹介した。

出演:菅 章、Olectronica、古山圭二、佐藤義隆、田原保志、藤井俊之、松田周作、三浦 温  
場 所:回遊Cafe#204



9月24日(月)

### 回遊Cafe#204内覧会

菅ディレクターによる事業概要と回遊Cafe#204の説明、Olectronica、松田周作による空間コンセプト説明、一般社団法人あらしき（ふくろうの森ビル）古山圭二による運営コンセプトの紹介を行なった。会の終わりにはティーパーティー形式で回遊Cafe#204で提供するハーブティーなどをふるまった。

場 所:回遊Cafe#204



10月5日(金)

### 回遊劇場 & アートプラザフェスタ2018 合同オープニングセレモニー

開館20周年を迎えるアートプラザの記念事業と合同で回遊劇場のオープニングセレモニーを実施した。両事業に参加するアーティストの紹介、各会場の案内などを行ない、大分チェロ軍団による演奏が開会に花を添えた。

場 所:アートプラザ 60'sホール





10月7日(日)

## 空間を作る

竹作家・川島茂雄による竹を使ったワークショップ。川島が作成した直径1メートルほどの竹の輪を使い、参加者が思い思いの竹の空間を制作した。制作した作品は、10/8のKanaによるワークショップで飾り付けをし、10/21までソーリンスクエアにて展示した。

講師:川島茂雄(竹作家)  
対象:中学生以上  
場所:大分銀行宗麟館2F ソーリンスクエア  
料金:無料



10月8日(月・祝)

## 空間を飾る

美術家・Kanaによるワークショップ。10/7に川島茂雄が実施したワークショップ「空間を作る」で完成した竹の空間に、Kanaと参加者が制作したカラフルなニットを飾り付けるというもの。大人から子供まで夢中でニットの飾りを作り、飾り付けて作品を完成させた。

講師:Kana(美術家)  
対象:小学生以上  
場所:大分銀行宗麟館2F ソーリンスクエア  
料金:無料



10月13日(土)

## 読み聞かせ&amp;サイン会

ザ・キャビンカンパニーが制作した絵本を自ら読み聞かせるイベント。開場前からたくさんの親子連れが列をなし、会場はすぐさま満員に。読み聞かせの後は絵本のサイン会を開催したが、これもまた長蛇の列となりザ・キャビンカンパニーの人気がうかがえた。

出演:ザ・キャビンカンパニー(絵本作家)  
対象:どなたでも  
場所:大分市美術館 ハイビジョンホール  
料金:無料



## イベント

10月14日(日)・21日(日)

### 「虹色の羽を作ろう」 みんなでフォトスポット制作！

「虹色の羽」のフォトスポットを制作するワークショップを開催した。参加者は羽を赤、黄、青のグラデーションで表現するとともに、羽に自分の願いを書き込んだ。完成した作品は工事現場の防護壁に設置し、多くの方が写真撮影を行なった。

講師：芳賀健太（画家）

対象：小学生以上

場所：九州電力（株）大分支社本館2F（14日）、スペースボスケ（21日）

料金：無料



10月21日(日)

### さりげなく、色で描こう！

色や絵具の面白さを体感しながら、10mの大きな紙に自由に描くワークショップ。描いた絵の上に皆で協力して絵の具を流しこみ、自然の模様を作り出した瞬間、盛り上がりは最高潮となった。完成した作品は10/24～11/7にソーリンスクエア、11/8～29にアートプラザで展示した。

講師：井川惺亮（現代美術家）、森 貴也（彫刻家）

対象：どなたでも

場所：大分銀行宗麟館2F ソーリンスクエア

料金：無料



10月24日(水)

### ギャラリートーク

現代美術家・井川惺亮と彫刻家・森貴也によるギャラリートーク。普段なかなかコラボレーションすることのない2人の対談に、平日にもかかわらずたくさんの方が訪れ、関心の高さがうかがえた。終始和やかな雰囲気の中、時折ジョークを交えながらのトークに参加者たちは熱心に耳を傾けていた。

出演：井川惺亮（現代美術家）、森 貴也（彫刻家）

対象：どなたでも

場所：大分銀行宗麟館2F ソーリンスクエア

料金：無料





11月11日(日)

## 「チューニング:調律」 映像作品上映会

2001年にユキノ恭弘が行なったパフォーマンス「チューニング:調律」の映像を上映し、パフォーマンスを追体験するイベント。ユキノと菅ディレクターによる作品解説を行ない、参加者からの質問に答えた。



出 演:ユキノ恭弘(芸術家)、菅 章  
対 象:高校生以上  
場 所:カモシカ書店  
料 金:1,000円(ワンドリンク付き)

11月18日(日)

## ノート作りワークショップ 「街を切りとってマイノートを作ろう」

まちなかを路上観察して撮影した風景を切り取り、オリジナルノートを作るワークショップ。デジタルカメラで撮影した風景をパソコンで編集し、ノートの表紙に貼った。見慣れた風景を切り取ることで新鮮な図柄ができた。



講 師:汐月 顕(美術家)  
対 象:高校生以上 デジカメを持参できる方  
場 所:中村屋  
料 金:無料

11月25日(日)

## クロージングイベント

参加アーティストや協力・関係者が会場いっばいに集い、回遊劇場をふりかえるとともに、それぞれの感想を述べた。意見交換会後の懇親会では皆話が尽きることなく、熱気冷めやらぬまま閉会となった。



場 所:回遊Cafe#204

## アートツアー

会期中、菅ディレクターのみどころ解説付きで回遊劇場をめぐるツアーを3回と、大分市美術館と大分県立美術館を大分きゅんバスでめぐるツアーを3回、計6回のアートツアーを実施した。

### ディレクターズツアー

ガイド：回遊劇場ディレクター 菅章



10月8日(月・祝) 10:30~15:00

【ルート】

大分駅府内中央口→J:COM ホルトホール大分→大分銀行宗麟館→〈大分きゅんバス〉→iichiko総合文化センター→新進舎ガレージ→岩尾ビル→まちなか観光案内所→二代目与一(昼食)→大分市中央通り線地下道→大分銀行赤レンガ館→ふないアクアパーク→回遊Cafe #204→シネマ5→金剛ビル→田崎洋酒店→遊歩公園前→絵本カフェみちくさ→アートプラザ

10月21日(日) 13:30~16:00

【ルート】

大分駅府内中央口→大分駅前地下道→カフェ・ドBGM→スペース ポスケバス停(中央通り③トキハ会館入口)→まちなか観光案内所→岩尾ビル→新進舎ガレージ→COFFEE KAISHODO→大分銀行赤レンガ館→ふないアクアパーク→回遊Cafe #204→シネマ5→金剛ビル→田崎洋酒店

11月23日(金・祝) 13:30~16:00

【ルート】

アートプラザ→バス停(大分市役所・合同新聞社前)→大分県庁→遊歩公園前→中村屋→回遊Cafe #204→ふないアクアパーク→大分銀行赤レンガ館→大分市中央通り線地下道→まちなか観光案内所→岩尾ビル→新進舎ガレージ→二代目与一→カフェ・ドBGM→大分駅前地下道→大分駅府内中央口

### まちなかアートツアー

【大分市美術館・大分県立美術館連携事業】

ガイド：大分市美術館スタッフ

大分県立美術館

「日本モダンの精華 京都国立近代美術館コレクション」

「国宝、日本の美をめぐる」

大分市美術館

「岩合光昭写真展 ネコライオン&ねこ科」

「アートフルロードプロジェクト CIAO! 2018」



10月20日(土) 13:00~17:00

「Kanaと巡るアートの旅」

同行アーティスト：Kana(美術家)

【ルート】

大分市美術館→〈大分きゅんバス〉→大分市中心市街地(回遊劇場見学)→大分県立美術館

11月4日(日) 13:00~17:00

「初めてのミュージアム」

同行アーティスト：山本大補(画家)

【ルート】

大分市美術館→〈大分きゅんバス〉→大分市中心市街地(回遊劇場見学)→大分県立美術館

11月10日(土) 13:00~17:00

「まちなかアートツアー」

解説：北村直登(画家)、箕河原 淳(木工作家)

【ルート】

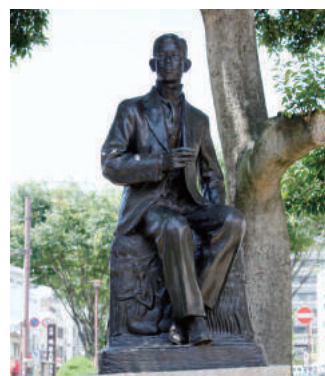
大分駅→〈大分きゅんバス〉→大分市美術館→〈大分きゅんバス〉→大分市中心市街地(回遊劇場見学)→大分県立美術館



## パブリックアート



「おおいたトイレンナーレ2015」の《メルティング・ドリーム》をはじめ、JR大分駅前や中央通りの地下道の作品など、大分市のまちなかには見慣れない不思議なアートが存在する。これらは公共空間を構成するパブリックアートとして位置づけることができ、日本には1990年代から導入された。古くは野外彫刻として公園や広場を飾ったが、市民の理解はまだ十分ではない。まちなかが美術館、劇場と位置付けた回遊劇場では新旧の委託制作されたアートや彫刻をパブリックアートとして市民や来街者に紹介し、その魅力や面白さを知ってもらう仕組みとした。



朝倉文夫《瀧廉太郎君像》



西山美なコ・笠原美希・春名祐麻《メルティング・ドリーム》



鈴木ヒラク《点が線の夢を見る》





## インフォメーションセンター

会期中、まちの4か所にインフォメーションセンターを設置し、回遊劇場をはじめ文化祭の案内と情報発信を行なった。

1



1

### 回遊 Cafe # 204

府内町 2-4-15 若竹ビル 2F 204

2

2

### 赤レンガ館案内所

府内町 2-2-1 大分銀行赤レンガ館内



3

### まちなか観光案内所

中央町 2-6-10

4

### 大分市観光案内所

要町 1-1 (JR 大分駅構内)

3







## ガイドボランティア「ポールさん」

「おおいたトイレナーレ2015」で歩くインフォメーションとして活躍した「ポールさん」が回遊劇場でも活動した。まちなかを回遊しながら来場者を案内するとともに、ポールさんの視点でめぐるオリジナルツアーなどを企画してもてなした。



## スタンプラリー

11月からスタンプラリーを実施。スタンプを全て集めた方には抽選でアーティストの作品などの賞品がプレゼントされた。

## 網中いづる

AMINAKA Izuru

イラストレーター。1968年宮城県生まれ。別府市在住。アパレル会社勤務を経て2002年にイラストレーターとして独立。エディトリアルを中心に、書籍装画や絵本、企業広告、店舗装飾、ファッションブランドへのデザイン提供など数多く手がける。1999年ペーター賞、2003年TIS公募プロ部門大賞、2007年講談社出版文化賞さしえ賞受賞。TIS会員。2012年に別府市へ移住し、都内アトリエと二拠点で活動する。2017年「CIAO！2017ようこそ上野の森へ」（大分市美術館）、「まちなかGO！アートみつきたい」（大分市美術館）に出展。大分県立芸術文化短期大学非常勤講師。

## 井川惺亮

IKAWA Seiryō

現代美術家。1944年内モンゴル生まれ。長崎県在住。モンゴルから引き揚げ後、愛媛県越智郡関前村で過ごす。ここで色彩溢れる島風景に感動。東京芸大大学院修了後仏国政府給費生として1975年渡仏。マルセイユ美術学校で絵画の単純化とロジカル性をクロード・ヴィアラ氏らから学ぶ。1979年帰国後個展を発表しながら、1984年から長崎大学にて後進の指導にあたる。地域と美術を結ぶ活動を行ないながら、落下した枝、使い古されたオブジェなどに着彩した作品なども発表。マルセイユ時代から作品タイトルは一様に「Peinture（絵画）」とし、時に壁面のない漂う空間に挑みつつインスタレーションを試みる。また壁に戻る作品へと向かい、その手法と表現の姿は変化し続けている。

## Olectronica

加藤亮（1984年大分市生まれ、大分市在住）と児玉順平（1984年熊本市生まれ、竹田市在住）による美術ユニット。2011年から「制作と生活」をテーマに大分県竹田市を拠点に活動を展開。作品制作のみならず、空間デザインや企画のプロデュースなど活動は多岐に渡る。多種多様に变化する時代のすき間を埋める為、表現の手法にとらわれず模索を続けている。代表作は小さな木彫シリーズ「wood figure」、「風景への参道」等。2016年「特別展 CIAO！“進世代”の胎動」（大分市美術館）に出展。プロジェクト「TAKETA ART CULTURE」を手掛ける。

## Kana

美術家。1983年長崎県生まれ。別府市在住。主に布や毛糸を使った“柔らかい彫刻”ソフト・スカルプチュアの作品や、クレパス、オイルパステルなどで描く平面の作品など「かわいい」をテーマに日々制作と発表を続けている。2016年「特別展 CIAO！“進世代”の胎動」（大分市美術館）、2017年「まちなかGO！アートみつきたい」（大分市美術館）などに参加。わかりやすい美術を取り入れたワークショップが高評価を得て、年数十カ所で講師としても活動中。2018年度より大分市佐賀関の廃校となった旧・大志生木小学校アトリエを拠点とし、活動地域をこれまでの県内をはじめ国内全域国外へも拡げる予定。

## 川島茂雄

KAWASHIMA Shigeo

竹工作家。1958年東京都生まれ。別府市在住。1978年大分県別府職業訓練校に入校し、1年間竹工芸を学ぶ。卒業後、3年間、別府の岡崎竹邦齋に師事。1981年同校非常勤講師を務める。西部工芸展等に入選、入賞。1994年頃から竹の立体造形作品の制作に取り組み、割竹を紐で結束した大小の作品を国内外の個展や彫刻展で発表。1999年東京国際フォーラムで個展「NAN-O-TUBE」を開催。2001年頃からアメリカでの個展や現地制作を行なっている。2016年「まちなかアート遊園地」（大分市美術館）に出展。



**北村直登**

KITAMURA Naoto

画家。1979年福岡県生まれ。大分市在住。幼少期よりサッカー漬けの日々を過ごす。1995年ブラジルへ1年間サッカー留学後、大分県の高校へ。大学卒業後、路上で自作の絵の販売を始める。2005年頃から大分の美術展にて幾度となく入賞。2008年には海外のグループ展にも参加。2014年フジテレビドラマ『昼顔～平日午後3時の恋人たち～』に絵画提供し、オープニングや劇中に使われ、その名が全国区となった。2016年「特別展 CIAO！“進世代”の胎動」（大分市美術館）に出展。現在、大分をはじめ関東、関西、九州にて数々の展覧会を開催しながら、精力的に作品制作を行なっている。

**ザ・キャビンカンパニー**

THE CABIN COMPANY

阿部健太朗と吉岡紗希による2人組の絵本作家。ともに大分県生まれ。大分県由布市内にある廃校を制作拠点とし、絵本、立体造形、アニメーションなどさまざまな表現方法を使い、独自の世界観を生み出している。TURNER AWARD2010未来賞、第7回日本童画大賞準優秀賞受賞。2016年「特別展 CIAO！“進世代”の胎動」（大分市美術館）に出展。主な著書に『だいおういかのいかたろう』（鈴木出版／第20回日本絵本賞読者賞受賞）『しんごうきピコリ』（あかね書房／第23回日本絵本賞読者賞受賞）など他多数。

**汐月 顕**

SHIOTSUKI Ken

美術家。1960年大分県佐伯市生まれ。大分市在住。原寸大の戦闘機、都市の壁、仏像などを主なテーマとして、近年では現役漫画家とのコラボ制作も行ないながら美術の新しい表現を追求。2001年「第56回行動美術展」行動美術賞-大賞（東京）、2002年「第36回文化庁主催現代美術選抜展」（北海道）、2003年「第13回けんしん美術展」大賞（大分）、2014年「第23回 英展」佳作賞（福岡）、その他、個展、グループ展、受賞等多数。1998年大分県芸術復興会議の助成により海外研修派遣（渡欧）。現在、行動美術協会会員、大分県美術協会会員、新潮流展代表。大分県立芸術緑丘高校教諭。

**芝田知明**

SHIBATA Tomoaki

ステンレス職人。1971年大分県別府市生まれ。宇佐市在住。空調設備や配管工事の設計施工をしている親の仕事に幼い頃より興味を持ち、付き添って現場に行き手伝いをしていた。宇佐市の高校を卒業後、埼玉県へ就職。就職先で溶接などの技術を学び安心院へUターン。両親の仕事場を継ぎ、職場の中にステンレスアート工房を作った。いまは仕事の傍ら、ステンレスを加工しオブジェ等の制作に勤しんでいる。2017年「CIAO！2017ようこそ上野の森へ」（大分市美術館）、「まちなかGO！アートみつきたい」（大分市美術館）に出展。

**箕河原 淳**

SUGAHARA Jun

木工作家。1965年大分県生まれ。大分市在住。2003年より独学にて木のおもちゃ作りから木工を始め、現在 木の家具を中心にスプーンなどの小物から店舗リノベーション等、無垢の木を使うことをベースにさまざまな事に挑戦中。

## 谷川 広人

TANIGAWA Hiroto

画家。1954年山口県生まれ。佐伯市在住。1976年より独学で油絵を描き始める。1984年より制作を止め約20年のブランクを経て個展、公募展、グループ展に出展し現在に至る。絵を描く傍ら、鉄や無垢材を使った店舗の照明や家具等のモノ創りなどで活動している。佐伯市にてタイトル『佐伯竜宮』 縦4.3メートル、横約70メートルの壁画を現在制作中。大分県美術協会会員、新潮流の协会会员、二紀会展出。

## 西野 正将

NISHINO Masanobu

美術家・映像ディレクター。1982年大分県玖珠町生まれ。東京都在住。主な展覧会に2006年「アイドル！」(横浜美術館)、2008年「ピクニックあるいは回遊」(熊本市現代美術館)、2012年「群馬青年ビエンナーレ2012」(群馬県立近代美術館)、「中之条ビエンナーレ2015」(群馬)、「黄金町バザール2016-アジア的生活-」(横浜)、など他多数参加。

## 蜷川 実花

NINAGAWA Mika

写真家・映画監督。1972年東京都生まれ。東京都在住。木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。映画『さくらん』(2007)、『ヘルタースケルター』(2012) 監督。2008年「蜷川実花展」が全国の美術館を巡回。2010年、Rizzoli N.Y.から写真集を出版、世界各国で話題に。2016年、台湾の現代美術館(MOCA Taipei)にて大規模な個展を開催し、同館の動員記録を大きく更新した。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事就任。

## 松田 周作

MATSUDA Shusaku

建築家。1979年福岡県生まれ。大分市在住。西南学院高等学校卒業、熊本県立大学居住環境学科卒業、熊本県立大学大学院卒業。北川原温建築都市研究所研修生、SITE(代表 齊藤祐子氏)勤務、妹島和世建築設計事務所/SANAA研修生を経て、2012年松田周作建築設計事務所を設立。2015年～2018年「ARTPLAZA U\_40 建築家展」(アートプラザ)に出展。2018年「アートプラザ開館20周年記念アートプラザフェスタ2018」実行委員長。大分市中心市街地・府内五番街(若竹ビル)を拠点に、建築の設計・デザイン、および、家具の設計・デザインを行っている。

## 三浦 温

MIURA On

服飾デザイナー。1972年大分県別府市生まれ。別府市在住。大阪芸術大学建築学科を卒業後独学でファッションの道へ。2006年～2015年「上野の森アートフェスティバル」(大分市美術館中庭) 出展、2012年3月に別府永久劇場にてファッションショー「ホントの時間」を開催。同年、別府北高架商店街にアトリエ兼ショップをオープンし、その後もさまざまなテーマで屋内外でのファッションショー「ホントの時間」を精力的に展開。2017年「CIAO! 2017ようこそ上野の森へ」(大分市美術館) 出展。「まちなかGO! アートみつけたい」(大分市美術館) では大分県庁と大分県立美術館OPAMの建築としての背景を舞台にファッションとパフォーマンスによる独創的な世界観を表現。



## 宮崎勇次郎

MIYAZAKI Yujiro

背景絵師・現代美術家。1977年大分県大分市生まれ。東京都在住。2001年に東京造形大学美術I類を卒業。2005年「トーキョーワンダーウォール公募2005」トーキョーワンダーウォール大賞、2007年「VOCA展2007」（東京）、2013年「Look East! -Japanese Contemporary Art-」（ギルマンバラックス・シンガポール）、2015年「おおいたトイレナーレ2015」（大分）、2017年「アートのなぞなぞ -高橋コレクション展- 共振するか反発するか?」（静岡県立美術館）、2018年「大分図」（アートプラザ）など、国内外で作品を発表している。  
〔パブリックコレクション〕大分市美術館

## 森 貴也

MORI Takaya

彫刻家。1981年熊本県玉名市生まれ。竹田市在住。2012年「第11回大分アジア彫刻展」（大分）で、作品《境界》が大分県出身在住作家初の大賞を受賞。2013年「第25回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」（山口）で宇部マテリアルズ賞を受賞。現在は大分市美術館の屋外に常設されている。2015年大分県芸術家海外派遣事業で渡米（ニューヨーク）、2017年「第72回行動展」で行動美術賞（最高賞）を受賞。自身の制作の傍ら、子どもたちに夢を持つことの素晴らしさを伝えるワークショップも好評で実施を続けている。主な作品のテーマは『境界』、『繋ぐ』。  
〔パブリックコレクション〕大分市美術館 朝倉文夫記念館 豊後高田市長崎鼻

## 山本大補

YAMAMOTO Daisuke

画家。1978年大分県生まれ。大分市在住。小学生の頃から高校卒業まで地元の絵画教室に通い、本格的に美術を習う。高校生になり油絵を始め、大学では油絵を制作。別府大学文学部美学美術史学科実技コース卒業。別府大学大学院文学研究科文化財学専攻修了。2002年東大寺大仏開眼1250年記念の為に制作された木彫像《菩提僊那像》や2006年直島・八幡神社《随神像》修理・復元彩色の彩色助手を、別府大学教員・篠崎悠美子氏の下で行なう。2006年頃からアクリル画の制作を行ない県内外の公募展に出展を始める。2013年開催の行動大分作家展をきっかけに行動美術に参加を始める。2018年「第73回 行動展」新人賞受賞。

## ユキノ恭弘

YUKINO Yasuhiro

芸術家。1936年大分県大分市生まれ。大分市在住。小学生の頃から赤瀬川原平と親交があり、大分市立上野ヶ丘中学校時代には赤瀬川とともに、磯崎新や吉村益信らがキムラヤ画材店を拠点として結成した美術グループ「新世紀群」に出入りした。赤瀬川が尾辻克彦名義で執筆し、第5回野間文芸新人賞を受賞した私小説『雪野』は、そのころの2人の交友を綴ったものである。1955年に上京、武蔵野美術学校洋画科に入学、1959年に中退。いったん大分に帰郷するが、1970年に再度上京。以後、自らの活動を、芸術でもない、反芸術でもない「半芸術」と称して活動した。2001年からは郷里の大分に再び戻って活動を続けている。

## 芳賀健太

YOSHIGA Kenta

画家。1983年兵庫県生まれ。大分市在住。2005年大分県立芸術文化短期大学美術専攻科修了。2005年より空間ペインターを屋号として、「人の喜びをカタチに」をコンセプトに、紙やキャンバスに描くだけでなく、壁、床、車や芝生まで、あらゆるものに制作し、空間を彩る画家として活動している。2007年より個展・グループ展を大分、福岡、東京、NYなど毎年多数開催。2009年よりさまざまなミュージシャンとライブペイントを始める。2012年より3Dトリックアートを手掛ける。大分空港、大分県豊後大野市の全ての道の駅等。2015年よりクリエイター集団POOMPクリエイターズ代表。

# 広 報

## 印刷物

- ポスター / B1 100枚 B2 1,000枚
- チラシ / A3二つ折り 20,000部
- ガイドブック / A5判 総54ページ中綴じ製本 30,000部

## グッズ

- 缶バッジ

## シティドレッシング

- 柱巻広告・デザインシート  
大分駅南北駅前広場



ポスター



- タペストリー  
府内五番街商店街  
サンサン通り商店街



- ポスター  
大分市役所庁舎  
公民館  
シティスケープ®  
商店街 など



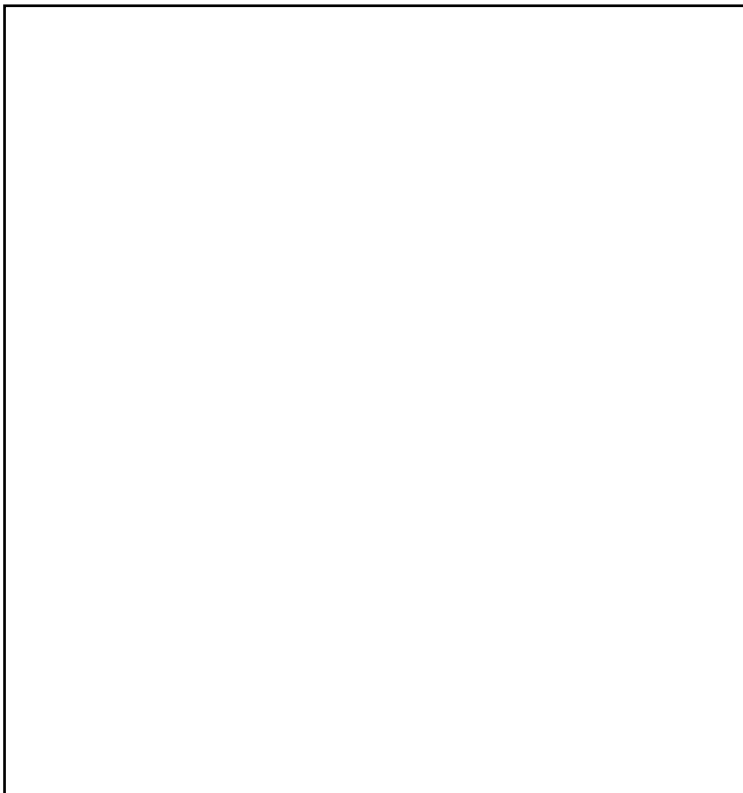


## 掲載記録

### 新聞

大分合同新聞

- 2018.6.21 つくるぞ巨大モザイク 大分駅前などで展示へ
- 6.30 「回遊劇場」の構想発表  
大分市の空き店舗で100日前イベント
- 9.5 ビルに大壁画、色鮮やかな楽園  
大分市の府内五番街
- 9.6 おおいた大茶会  
開幕まで30日準備ラストスパート
- 10.4 モザイクアート【四重奏】
- 10.5 文化祭特集号



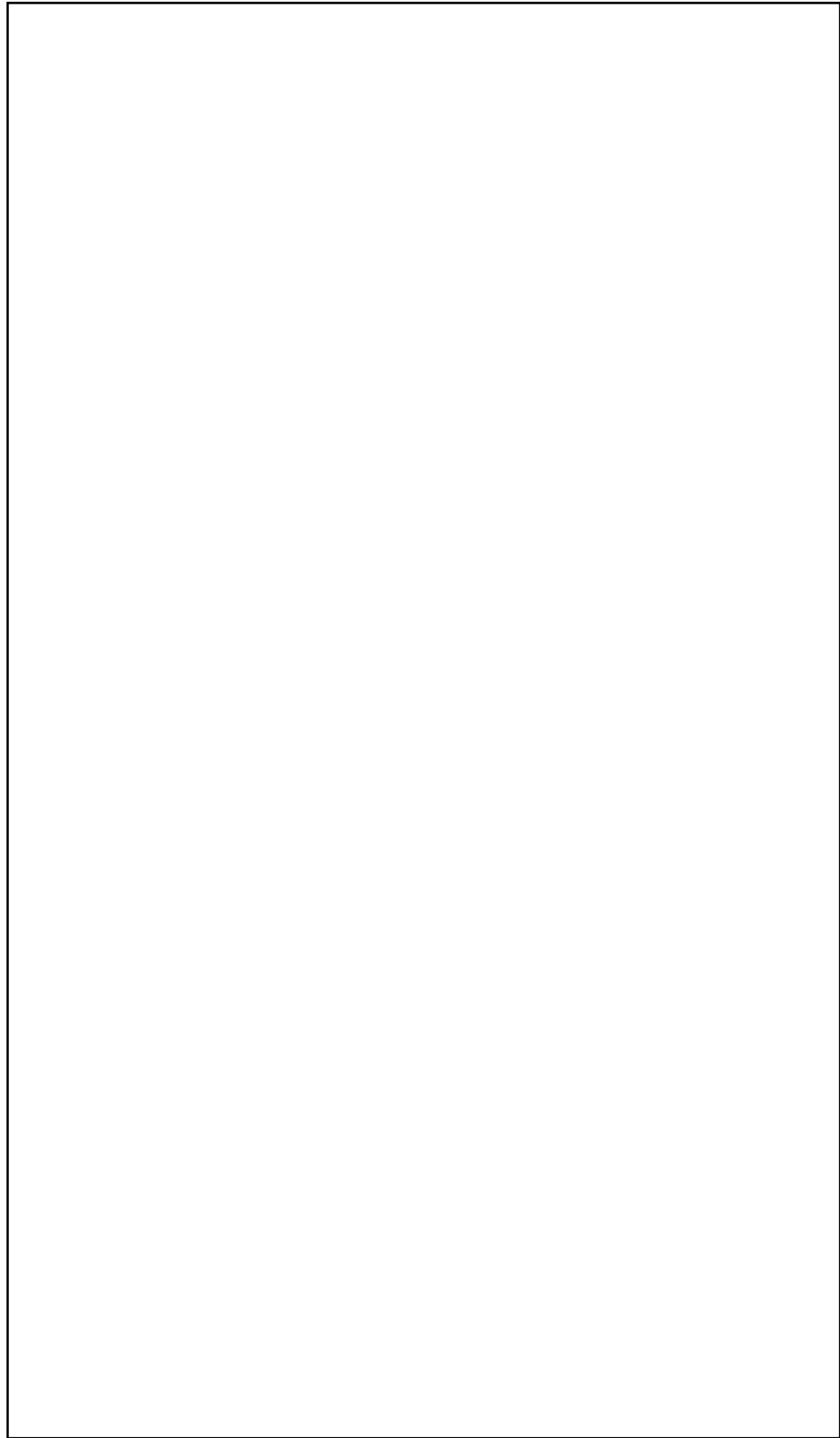
大分合同新聞 2018年6月21日 朝刊掲載

大分合同新聞 2018年10月5日 朝刊掲載



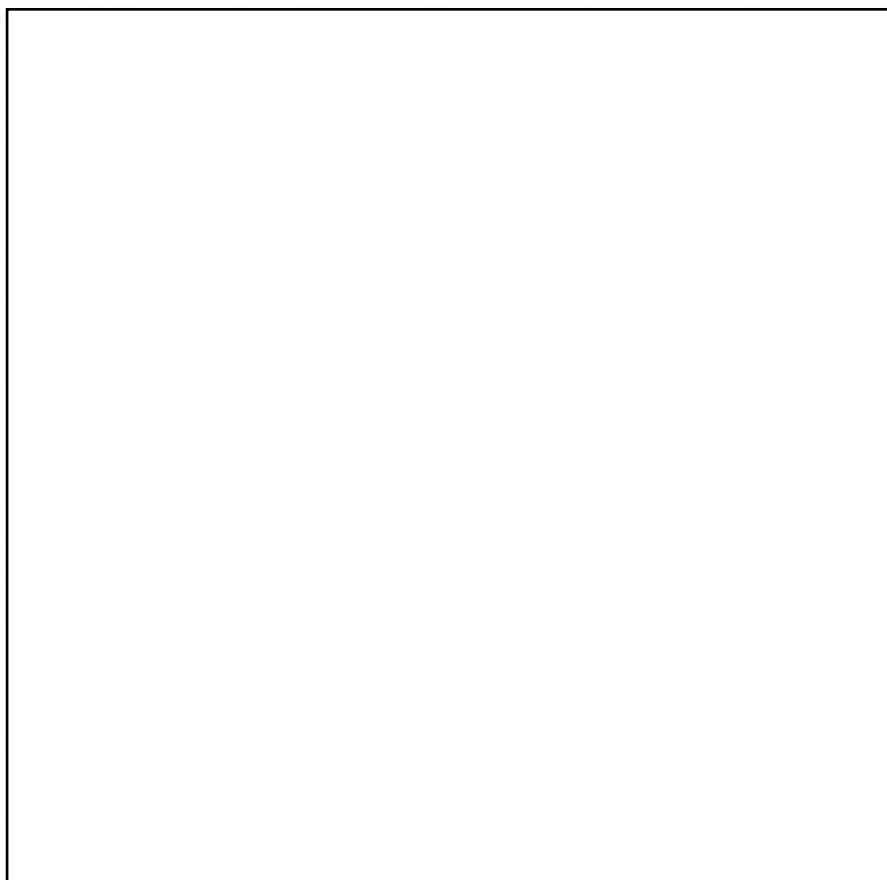
- 10.5 アート巡りに活用を 府内町に拠点「回遊Cafe」
- 10.6 「回遊劇場」オープン  
大分市のアートプラザでセレモニー
- 10.18 キティのエコバッグ府内町で無料配布
- 10.23 無垢な感性、美のエスプリ
- 10.23 今日も、創る  
見て！障がい者アート 分藤明男さん
- 11.23 アート彩る街ぐるり  
大分市中心部の「回遊劇場」 おおいた大茶会

新聞



毎日新聞社 2018年10月19日 朝刊掲載





大分合同新聞 2018年11月23日 朝刊掲載

- |        |       |                          |
|--------|-------|--------------------------|
| 朝日新聞   | 9.3   | 街中アート 文化祭楽しみ             |
|        | 11.6  | 街なかに巨大モザイク画 大分市の「回遊劇場」   |
| 毎日新聞   | 10.19 | “交流空間” 回遊Cafe#204        |
| 熊本日日新聞 | 10.22 | 文化祭紹介                    |
| 読売新聞   | 10.25 | 国文祭に合わせ限定カフェ 障害者が接客 交流の場 |

**市報**

- |        |        |                     |
|--------|--------|---------------------|
| 市報おおいた | 9.1号   | 国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭特集 |
|        | 10.15号 | 回遊劇場特集              |
|        | 12.1号  | TOPICS 国民文化祭振り返り    |



テレビ

OBS	6.7	モザイクアート制作
	9.19	芳賀健太壁画制作
	9.24	回遊Cafe#204プレオープン
	10.3	モザイクアートお披露目
	10.5	回遊劇場&アートプラザ合同オープニング
	10.9	回遊Cafe#204
	10.30	回遊劇場（各市町村PR）
10.31	大分市テレビ広報番組「いいやん!大分」 国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭 回遊劇場を巡ろう	
TOS	6.7	モザイクアート制作
	6.26	モザイクアート制作
	9.20	芳賀健太壁画制作
	9.24	回遊Cafe#204プレオープン
	10.3	モザイクアートお披露目
	10.5	回遊劇場&アートプラザ合同オープニング
OAB	6.7	モザイクアート制作
	8.29	宮崎勇次郎壁画制作
	9.20	芳賀健太壁画制作
	10.3	モザイクアートお披露目
	10.3	出演PR
NHK	6.7	モザイクアート制作
	9.6	回遊劇場・巨大寝ころび招き猫
	10.9	回遊劇場・文化祭開幕
	12.11	モザイクアート（視聴者投稿ビデオ紹介）
J:COM	10.8	回遊劇場&アートプラザ合同オープニング
	10.8	出演PR
	10.19	大分市テレビ広報番組「知ったク!大分市」 第33回国民文化祭・おおいた2018 第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会
CM	9月~10月	OBS TOS
	9月~11月	OAB

ラジオ

OBS	10.6	出演PR（文化祭開会式公開生放送）
-----	------	-------------------

WEB

大分経済新聞	9.25	大分市のアートイベント拠点「回遊カフェ」プレオープン
オオイタカテ	10.31	注目の現代アートが大分に集結！



SNS

回遊劇場公式 Facebook

8.1開設 投稿数 126件 いいね!数 366件 (2018年11月26日時点)

大分市公式 Facebook 「いいやん!大分」

- 8.8 | 回遊劇場 Facebook 開設
- 8.29 | 宮崎勇次郎壁画制作説明会
- 9.26 | 芳賀健太、谷川広人壁画制作
- 9.27 | 回遊Cafe #204内覧会
- 10.5 | 回遊劇場 & アートプラザフェスタ2018合同オープニング
- 10.22 | 回遊劇場～ひらく・であう・めぐる～ ワークショップ・ツアーに参加しよう!
- 11.19 | 回遊劇場 まちなかアートの紹介

大分市公式 Instagram 「oita\_pride」

- 10.23 | 回遊劇場を巡ろう VOL.1 谷川広人《廻る》
- 10.31 | 回遊劇場を巡ろう VOL.2 宮崎勇次郎《NEW WORLD 府内富士》
- 11.15 | 回遊劇場を巡ろう VOL.3 芳賀健太《ゆめつくり虫～DOROBACHI STORY～》

フリーペーパー

- 「Discover Oita」秋 大分芸術探訪
- 生活情報マガジン「mogu<sup>2</sup>」10月号
- 「ファンファン福岡」No.060
- 月刊「ぶらざ」10月、11月号
- 大分商工会議所 プレミアム周遊ランチクーポン

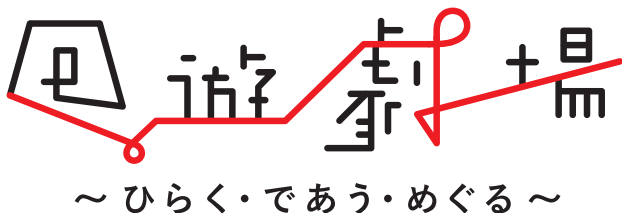
イベント

9.19 | 国民文化祭ファイナルプレゼンテーション!!

その他

- 8.20～26 | アクロス福岡 パネル展示
- 9.15 | 全面広告 産経新聞
- 10.1 | 大分県市町村職員共済組合 共済だより「きょうさい」10月号
- 11.3 | 新聞折込 大分県
- 11.16 | 新聞折込 福岡市、北九州市、熊本市
- 大分銀行宗麟館イベントチラシ (10月、11月)
- 大分銀行ドーム ピッチ看板
- 大分トリニータ マッチデープログラム
- 大分トリニータ 大分市ホームタウンDAY 大分市PRうちわ
- おおいたワールドマーケット2018リーフレット

「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」  
大分市リーディング事業



会 期：2018年10月6日（土）～11月25日（日） 全51日間

会 場：大分市中心市街地 各所

鑑賞者数：408,648名

主 催：

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会  
第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会  
第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会

協 力：

岩尾株式会社 株式会社大分銀行 株式会社金剛商会 ギャラリーおおみち 九州電力株式会社大分支社  
シネマ5 田崎洋酒店 蜷川実花展大分実行委員会 有限会社親進舎

後 援：

大分合同新聞社 朝日新聞大分総局 読売新聞社 毎日新聞社 西日本新聞社 共同通信社  
時事通信社大分支局 日刊工業新聞社 NHK大分放送局 OBS大分放送 TOSテレビ大分 OAB大分朝日放送  
エフエム大分 J:COM 大分ケーブルテレコム 月刊・シティ情報おおいた 大分市商店街連合会

ディレクター：菅 章（大分市美術館館長）

事務局：大分市企画部国民文化祭・障害者芸術文化祭推進局

企画協力：古山圭二 佐藤義隆 竹内裕二 田原保志 藤井俊之

デザイン：井下 悠（イノシタデザイン） 森竹俊象（NAUT GRAPHICS.）

コピーライティング：嶋山哲史

コーディネーター：山口祥平

ガイドボランティア「ポールさん」：

稲垣由紀 江上貴広 大津奈央 奥村啓三 佐々木賀菜絵 金元エレン法子 萱島亜由美  
木戸流衣 工藤福成 後藤裕美 小森孝子 首藤優弥 寶亀真美 田原梨紗 富澤史子  
新留紗智 東 保子 藤原京子 藤井海登 本間美咲 三宅広起 横川あゆみ 渡辺圭子

インフォメーションスタッフ：

大川里実 小野広子 加藤瑞紀 田原みゆき 藪田真緒



「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」  
大分市リーディング事業「回遊劇場～ひらく・であう・めぐる～」記録集

執筆・監修：菅 章（回遊劇場ディレクター・大分市美術館館長）

写真撮影：有限会社スタジオ・シーン

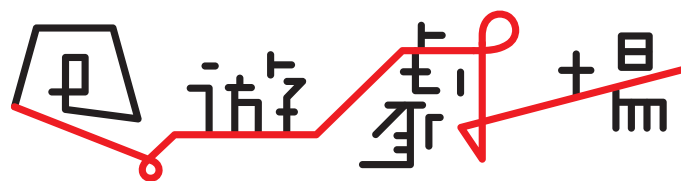
網中いづる Oelectronica 古山圭二 田原保志 松田周作 芳賀健太  
大分市企画部国民文化祭・障害者芸術文化祭推進局

デザイン：井下 悠（イノシタデザイン） 森竹俊象（NAUT GRAPHICS.）

編集：山口まどか（大分市企画部国民文化祭・障害者芸術文化祭推進局）

印刷：佐伯印刷株式会社

発行：大分市企画部国民文化祭・障害者芸術文化祭推進局 ©2019



～ ひらく・であう・めぐる～